



日産化学株式会社

2022年3月期 第2四半期決算説明電話会議

説明者：取締役副社長 CFO 宮崎純一

質疑応答：代表取締役 取締役社長 COO 八木晋介

2021年11月11日

会計方針の変更(一部8月より数値変更あり)

1.方針の変更: 「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用

2.適用時期: 2021年4月1日より

3.方針変更に伴うPL、BSへの主な影響:

(1) 代理人取引

(主たる適用セグメント) 化学品、農業化学品、卸売

(適用後) 売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)

(2021年度予想(2021年11月業績予想修正後)PLへの想定影響額)

売上高、売上原価がそれぞれ205億円減少(5月時点予想:446億円減少)、営業利益には影響せず
各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

(主たる適用セグメント) 農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)

(適用前)(2020年度まで) MSD社*1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月、に計上

(適用後)(2021年度より) MSD社*1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、
10-12月売上高見合を翌年2月、に計上 *MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門の
MSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

(主たる適用セグメント) 農業化学品

(適用後)売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上)

適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
(2021年度BSへの想定影響額)

2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)

(適用前)(2020年度) 2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上

(適用後)(2020年度) 上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

2

宮崎: 宮崎です。よろしくお願いたします。それでは、お手元資料の2ページです。

会計方針の変更について、従来と変わっておりませんが、1点だけ修正点ございまして、(1) 代理人取引の2021年度予想の総額ですけれども、従来5月の段階で446億円の減少と申し上げましたが、これは205億円と修正させていただきます。

これは従来、消去の対象と考えておりました、本体が製造して、われわれの商社会社であります日星産業を通して売る売上につきまして、代理人取引という認定ではないということになりましたので、修正いたしました。当然ながら利益には関係はございません。

2021上実績ハイライト

1. 前年同期比

- ◆ **営業利益は、前年同期180億円に対し、213億円と33億円の増益(+19%)**
 - ー 化学品は、メラミン・テピック・環境化学品の増収が大きく、増益
 - ー 機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調により増益
 - ー 農業化学品は、フルラネルロイヤリティ収入増も、会計方針の変更(農薬売上値引コスト増)による減収、アルテア・グレーシアの減収、フルラネルの出荷減、固定費の増加により減益
 - ー 医薬品は、リバロ減収も、ファインテック増収により増益
- ◆ **純利益は、前年同期139億円に対し、163億円と24億円の増益(+17%)**
- ◆ **営業利益、経常利益、当期純利益は2018年上期の過去最高益を更新**

2. 業績予想(2021年5月発表)比

- ◆ **営業利益は、業績予想177億円に対し、213億円と36億円の増え**
 - ー 化学品は、メラミン・テピックの好調により、利益増え
 - ー 機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調により、利益増え
 - ー 農業化学品は、フルラネルロイヤリティ収入の増えに加え、固定費減等により、利益増え
 - ー 医薬品は、リバロの増えにより、利益増え
- ◆ **純利益は、5月予想140億円に対し、163億円と23億円の増え**

3

続きまして3ページ、上期のハイライトです。

まず、前年同期ですが、営業利益は前年の180億円に対しまして213億円と、19%、33億円の増益となりました。セグメント別では、化学品、機能性、医薬が増益で、農業化学品のみ減益という結果でした。

純利益は、前年同期比139億円に対しまして163億円で、24億円の増益、17%の増益率です。営業利益、経常、当期純利益につきましては、過去の18年上期の最高益を更新する結果となりました。

この数字の5月の業績予想対比でございますけれども、営業利益は予想177億円に対しまして213億円ですので、36億円の増えとなりました。全てのセグメントが増えでございました。純利益は、予想140億円に対しまして163億円ということで、23億円の増えです。

2021下予想ハイライト

1. 前年同期比

◆営業利益は、前年同期245億円に対し、261億円と16億円の増益(+6%)

- －化学品は、メラミン・環境化学品の増収により増益
- －機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調により増益
- －農業化学品は、会計方針の変更(農薬売上値引コスト減)による増収、フルララネル・ダイセン等の増収により増益
- －医薬品は、リパロ・ファインテックの減収により減益

◆純利益は、前年同期196億円に対し、201億円と5億円の増益(+3%)

2. 前回業績予想(2021年5月発表)比

◆営業利益は、前回予想259億円に対し、261億円と2億円の**上ぶれ**

- －化学品は、原燃料価格上昇も、メラミン・テピックの好調、在庫変動影響(プラス要因)により、利益**上ぶれ**
- －機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調により、利益**上ぶれ**
- －農業化学品は、フルララネルは好調だが、グレーシア・アルテアの下ぶれにより、利益**下ぶれ**
- －医薬品は、リパロの下ぶれにより、利益**下ぶれ**

◆純利益は、前回予想201億円と同額の**201億円**

4

続きまして4ページ、下期の予想でございます。

まず、前年同期ですが、前年は245億円ということで、今期は261億円で、16億円の増益、6%の増益を見ております。

セグメントでは、化学品、機能性、農薬が増益で、医薬品のみ減益となります。純利益は、前年が196億円に対して201億円と、5億円の増益です。

この予想値の前回5月の予想との比較ですが、営業利益につきましては2億円の上ぶれということで、261億円です。これにつきましては、化学品、機能性は上ぶれ、農業化学品と医薬品は下ぶれと見ております。純利益につきましては、前回と同額の201億円と見ております。

2021年間予想ハイライト

1. 前年同期比

- ◆営業利益は、前年同期425億円に対し、474億円と49億円の増益(+11%)
 - ー化学品は、メラミン・テピック・環境化学品の増収が大きく、増益
 - ー機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調により増益
 - ー農業化学品は、グレーシア・アルテア等の減収、固定費の増加により利益横ばい
 - ー医薬品は、リバロ減収も、ファインテック増収、在庫変動影響(プラス要因)により増益
- ◆純利益は、前年同期335億円に対し、364億円と29億円の増益(+9%)
- ◆コロナ禍にもかかわらず、営業利益・経常利益は8年連続、純利益は9年連続 過去最高益を更新
- ◆ROE予想は18.1%と初の18%台で前年実績17.5%、前回予想17.0%、中計目標値16%を上回る

2. 前回業績予想(2021年5月発表)比

- ◆営業利益は、前回予想436億円に対し、474億円と38億円の増え
 - ー化学品は、原燃料価格上昇も、メラミン・テピックの好調、在庫変動影響(プラス要因)により、利益増え
 - ー機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調により、利益増え
 - ー農業化学品は、フルララネル増え、在庫変動影響(プラス要因)により、利益増え
 - ー医薬品は、リバロの増えにより、利益増え
- ◆純利益は、前回予想341億円に対し、364億円と23億円の増え

3. 中期経営計画予想比(詳細p50、52)

- ◆コロナ禍にもかかわらず、中計予想営業利益430億円、経常利益440億円、純利益330億円に対し、それぞれ44億円、48億円、34億円増えで達成

4. 株主還元

- ◆配当は年間114円(中間50円、期末64円)とし、前年104円(中間46円、期末58円)に対し、10円増配、前回予想108円(中間48円、期末60円)に対し、6円増配、配当性向は44.7%(前年実績は44.9%)
- ◆その結果、配当は10年連続増配の見込み
- ◆自己株式取得は、2021年7月に70億円完了
- ◆総還元性向(配当+自己株式取得)の目標は75%(配当114円と自己株式取得実績70億円のみに基づけば64%)

5

続いて、5 ページの年間のハイライトです。

まず、前年同期比。営業利益につきましては、前年 425 億円に対して 474 億円と、49 億円の増益、プラス 11%です。農業化学品は横ばいですが、他のセグメントは増益となります。純利益は、前年の 335 億円に対しまして 364 億円で、29 億円の増益です。

コロナ禍にも関わらず、営業利益、経常利益は 8 年連続、純利益が 9 年連続、過去最高益を更新すると見ております。ROE につきましては、18.1%という予想で、初めて 18%に乗り、中計目標値の 16%を上回ります。

この数字の前回予想値との比較ですが、営業利益につきましては 38 億円の増え。すべてのセグメントで増えを予想しております。純利益につきましては 364 億円で、23 億円の増えです。

それから中期経営計画の数値との比較です。今年度は最終年ということになります。コロナ禍にも関わらず、中計予想の営業利益、経常利益、純利益、それぞれ 44 億円、48 億円、34 億円の増えの達成の見込みです。

株主還元です。今回配当は年間 114 円、中間で 50 円、期末で 64 円ということで、前年の 104 円から 10 円の増配を見込んでおります。この数値は前回の予想値 108 円から 6 円の増配ということ

になり、その結果、配当は10年連続増配の見込みです。自己株式の取得につきましては、7月に70億円の金額を完了しております。

ここで、少し所感を述べさせていただきます。今年度、同業他社の多くは当社よりはるかに高い増益率が予想されています。しかし、その多くは、2019年度、2020年度と2年連続で減益であり、ようやく回復した状況であります。

対照的に、当社は、2019年度、2020年度は最高益を更新し、今期も8年、あるいは9年連続で最高益を更新する予想であります。また、当社の中計も、コロナが存在していなかった2019年5月に策定した目標の数値を全てクリアする見込みです。

一方、同業他社の中計達成度を見ますと、2018年から2020年に中計が終了した19社のうち、利益目標をクリアしたのはわずか2社のみでございました。

これから上期の詳細な説明に入りますが、ぜひ足元の動向だけではなく、今触れましたとおり、当社の困難な環境下でも、継続して目標を達成する実行力と事業創出のDNAをぜひ見ていただきたいと存じます。

2021上実績⁽¹⁾

(億円)

	2020上			2021上			増減			増減率	2021上予想 (2021/5発表)		
	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	1Q	2Q	計	計	1Q	2Q	計
売上高	493	452	945	465	453	918	-28	+1	-27	-3%	400	365	765
営業利益	98	82	180	119	94	過去最高 213	+21	+12	+33	+19%	98	79	177
営業外損益	6	-4	2	4	5	9	-2	+9	+7	-	4	-1	3
経常利益	104	78	182	123	100	過去最高 223	+19	+22	+41	+23%	102	78	180
特別損益	0	11	11	0	0	0	0	-11	-11	-	0	10	10
純利益 (2)	76	63	139	88	75	過去最高 163	+12	+12	+24	+17%	75	65	140
EBITDA (3)	121	107	228	142	118	260	+21	+11	+32	+14%	-	-	227
EPS (円/株)	52.38	43.58	95.96	61.73	52.21	113.94	+9.35	+8.63	+17.98	+19%	-	-	98.03
配当 (円/株)	-	-	46	-	-	50	-	-	4	-	-	-	48
配当総額	-	-	66	-	-	71	-	-	5	-	-	-	68
売上高営業利益率	19.9%	18.1%	19.0%	25.5%	20.9%	23.2%	+5.6%	+2.8%	+4.2%	-	24.5%	21.6%	23.1%
ROE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
為替レート(円/ドル)	108	106	107	110	110	110	-	-	-	-	107	107	107
原油(JCC)(ドル/bbl) (4)	31	41	36	67	73	70	-	-	-	-	55	55	55

(1) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(p2参照)

(2) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

(3) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(4) 実績は財務省貿易統計ベース

それでは資料に戻ります。7 ページ、上期の実績の表でございます。中ほどをご覧のとおり、営業利益が 213 億円、当期純利益は 163 億円という結果となりました。

2021上実績

<前年同期比>

(売上高) ◆減収 -27 億円 (-3%)
(うち会計方針の変更による売上高減少-109億円)

(営業利益) ◆増益 +33 億円 (+19%)
(うち会計方針の変更による営業利益減少-9億円、
農業売上値引コスト増)

(経常利益) ◆増益 +41 億円 (+23%)
(特別損益) ◆減益 -11 億円

(純利益) ◆増益 +24 億円 (+17%)
(EPS) ◆増加 +17.98 円 (+19%)

(増収) 化学、機能性材料、医薬、卸売
(減収) 農業化学

(増益) 化学、機能性材料、医薬
(横ばい) 卸売
(減益) 農業化学

2021上 特別利益+28億円(有価証券売却益28億円・売却額36億円、
5銘柄(うち1銘柄保有全株数売却))
特別損失-28億円(メラミン構造改善費用、日本燐酸*設備撤去費用)
2020上 特別利益+11億円(有価証券売却益)

*日本燐酸: 当社関連会社(出資比率35%)、硫酸および燐酸液の製造・販売
燐酸液の製造停止決定に伴い、
出資比率に応じて設備撤去費用等を負担

営業利益、経常利益、純利益は過去最高益を更新

<株主還元>

(配当) ◆中間50円(前年比:4円増配、2021/5業績予想比:2円増配)

(自己株式取得) ◆70億円、1,262千株取得(2021年5月~7月)

(自己株式消却) ◆2百万株消却(2021年5月、8月)

<2021/5業績予想比>

(売上高) ◆上ぶれ +153 億円 (上ぶれ) 化学、機能性材料、農業化学、医薬、卸売
(うち会計方針の変更による売上高上ぶれ(代理人取引影響額)は+106億円)

(営業利益) ◆上ぶれ +36 億円

(上ぶれ) 化学、機能性材料、農業化学、医薬、卸売

(経常利益) ◆上ぶれ +43 億円

(特別損益) ◆下ぶれ -10 億円

(純利益) ◆上ぶれ +23 億円

(EPS) ◆上ぶれ +15.91 円

8

8 ページにまとめがありますが、今まで触れていないところで特別損益の項目です。

ネットでマイナス 11 億円ということになりました。右側に内訳書いてございますが、20 年度は利益の 11 億円のみでしたが、今期は特別損失 28 億円。メラミンの構造改善費用と、それから日本燐酸での設備撤去費用というものをここに認識をしてございます。

日本燐酸でございますけれども、こちらの方は下に注がございまして、当社が 35%出資し、他には全農さん等々の出資がございまして、硫酸とリン酸液の製造を行っているところですが、リン酸液、これは主に肥料用ですが、この製造を停止いたしました。

これに伴って、各出資会社が設備撤去費を負担することとなります。同社のオペレーションは、ノンプロ・ノンロスで運営されておりますので、資本勘定に全く厚みがございませんので、こういった特別損失については、各出資会社が直接負担する形となります。

それから、株主還元でございますけれども、配当は上期、先ほど申し上げましたとおり、50 円ということで、前年比 4 円の増配を考えております。

2021予想(3Q、4Q業績予想開示)⁽¹⁾

(億円)

	2020実績							2021予想 (2021/11発表)							2021予想 (2021/5発表)				
	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q実	2Q実	上実	3Q	4Q	下	計	1Q	2Q	上	下	計
売上高	493	452	945	437	709	1,146	2,091	465	453	918	467	670	1,137	2,055	400	365	765	960	1,725
営業利益	98	82	180	56	189	245	425	119	94	213	94	167	261	474	98	79	177	259	436
営業外損益	6	-4	2	2	10	12	14	4	5	9	4	1	5	14	4	-1	3	10	13
経常利益	104	78	182	58	199	257	439	123	100	223	98	167	265	488	102	78	180	269	449
特別損益(2)	0	11	11	0	5	5	16	0	0	0	0	10	10	10	0	10	10	6	16
純利益(3)	76	63	139	45	151	195	335	88	75	163	88	113	201	364	75	65	140	201	341
EBITDA(4)	121	107	228	83	219	302	530	142	118	260	-	-	319	579	-	-	227	320	547
EPS(円/株)	52.38	43.58	95.96	30.97	104.80	135.77	231.73	61.73	52.21	113.94	-	-	141.16	255.10	-	-	98.03	141.15	239.18
配当(円/株)	-	-	46	-	-	58	104	-	-	50	-	-	64	114	-	-	48	60	108
配当性向(%)	-	-	-	-	-	-	44.9	-	-	-	-	-	-	44.7	-	-	-	-	45.2
配当総額	-	-	66	-	-	84	150	-	-	71	-	-	91	162	-	-	68	86	154
売上高営業利益率	19.9%	18.1%	19.0%	12.8%	26.8%	21.4%	20.3%	25.5%	20.9%	23.2%	20.1%	24.9%	22.9%	23.1%	24.5%	21.6%	23.1%	27.0%	25.3%
ROE	-	-	-	-	-	-	17.5%	-	-	-	-	-	-	18.1%	-	-	-	-	17.0%
為替レート(円/ドル)	108	106	107	105	106	105	106	110	110	110	107	107	107	108	107	107	107	107	107
原油(JCC)(ドル/bbl)(5)	31	41	36	44	56	50	43	67	73	70	-	-	75	73	55	55	55	55	55

(1) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(p2参照)

(2) 2021予想(2021/11発表):10億円(有価証券売却益、メラミン構造改善費用、日本燐酸設備撤去費用)

(3) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

(4) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

(5) 実績は財務省貿易統計ベース

9

続いて、9ページをご覧ください。9ページが年間の予想値になります。

従来どおり、3Q、4Qの業績予想値も開示をしてございます。この表にございますとおり、下期については、営業利益が261億円、当期純利益が201億円ということで、年間では営業利益で474億円、当期で364億円。

この数字で見ますと、営業利益率は23.1%。前提となります為替レートは、下期は107円と置いております。また、原油(JCC)につきましては、75ドルという前提で見ております。

2021下予想

<前年同期比>

(売上高) ◆減収 -9 億円 (-1%)
(うち会計方針の変更による売上高減少-97億円)

(増収) 化学、機能性材料、農業化学、卸売
(減収) 医薬

(営業利益) ◆増益 +16 億円 (+6%)
(うち会計方針の変更による営業利益増加+7億円、農業売上値引コスト減)

(増益) 化学、機能性材料、農業化学
(減益) 医薬、卸売

(経常利益) ◆増益 +8 億円 (+3%)
(特別損益) ◆増益 +5 億円

2021下 特別利益 +10億円(有価証券売却益)
2020下 特別利益 +5億円(有価証券売却益)

(純利益) ◆増益 +5 億円 (+3%)
(EPS) ◆増加 +5.39 円 (+4%)

3Q(営業利益) ◆増加 +38 億円 (+68%)

(うち会計方針の変更による営業利益増加+35億円、フルラネルロイヤリティ収入計上時期変更による増・農業売上値引コスト減)

4Q(営業利益) ◆減少 -22 億円 (-12%)

(うち会計方針の変更による営業利益減少-28億円、フルラネルロイヤリティ収入計上時期変更による減・農業売上値引コスト増)

<2021/5業績予想比>

(売上高) ◆上ぶれ +177 億円
(うち会計方針の変更による売上高上ぶれ(代理人取引影響額)は+135億円)

(上ぶれ) 化学、機能性材料、卸売
(下ぶれ) 農業化学、医薬

(営業利益) ◆上ぶれ +2 億円

(上ぶれ) 化学、機能性材料
(下ぶれ) 農業化学、医薬、卸売

(経常利益) ◆下ぶれ -4 億円
(特別損益) ◆上ぶれ +4 億円

(純利益) ◆予想通り
(EPS) ◆予想通り

10

10 ページにまいります。下期の予想です。

先ほどハイライトのところでも申し上げました数字が並んでおりますが、営業利益につきましては、前年比プラスの 16 億円、特別損益はプラスの 5 億円と見ております。

2021年間予想

<前年同期比>

(売上高) ◆減収 -36 億円 (-2%)
(うち会計方針の変更による売上高減少-206億円)

(増収) 化学、機能性材料、農業化学、卸売
(減収) 医薬

(営業利益) ◆増益 +49 億円 (+11%)
(うち会計方針の変更による営業利益減少-2億円、農業売上値引コスト増)

(増益) 化学、機能性材料、医薬
(横ばい) 農業化学
(減益) 卸売

(経常利益) ◆増益 +49 億円 (+11%)
(特別損益) ◆減益 -6 億円

2021年間 特別損益+10億円(有価証券売却益、メラミン構造改善費用、日本燐酸設備撤去費用)
2020年間 特別損益+16億円(有価証券売却益)

(純利益) ◆増益 +29 億円 (+9%)
(EPS) ◆増加 +23.37 円 (+10%)

営業利益・経常利益は8年連続、純利益は9年連続 過去最高益を更新

<2021/5業績予想比>

(売上高) ◆上ふれ +330 億円
(うち会計方針の変更による売上高上ふれ(代理人取引影響額)は+241億円)

(上ふれ) 化学、機能性材料、医薬、卸売
(下ふれ) 農業化学

(営業利益) ◆上ふれ +38 億円

(上ふれ) 化学、機能性材料、農業化学、医薬、卸売

(経常利益) ◆上ふれ +39 億円
(特別損益) ◆下ふれ -6 億円

2021予想(2021/11) +10億円
2021予想(2021/5) +16億円

(純利益) ◆上ふれ +23 億円
(EPS) ◆上ふれ +15.92 円

<株主還元>

(配当) ◆中間50円、期末64円(配当性向44.7%、前年比:中間4円増配、期末6円増配 2021/5業績予想比:中間2円増配、期末4円増配) 10年連続増配の見込み

(自己株式取得実績) ◆70億円、1,262千株取得(2021年5月~7月)

(自己株式消却) ◆2百万株消却(2021年5月、8月)

(総還元性向目標) ◆75%(配当114円と自己株式取得70億円に基づけば64%)

11

それから 11 ページにまいりまして、年間のところであります。

先ほど申し上げましたとおり、営業利益につきましてはプラスの 49 億円ということでありまして、経常はプラスの 49 億円、それから当期でプラス 29 億円、それぞれ 8 年、9 年連続で過去最高益を更新の計画でございます。

2021上実績、2021予想 営業外損益・特別損益

(億円)

	2020実績			2021予想 (2021/11発表)			増減			2021予想 (2021/5発表)		
	上	下	計	上実	下	計	上実	下	計	上	下	計
営業外収益	9.5	18.4	27.9	13.6	11.8	25.4	+4.1	-6.6	-2.5	9.2	17.5	26.7
受取利息・配当金	3.5	6.5	10.0	3.2	3.3	6.5	-0.3	-3.2	-3.5	2.8	3.7	6.5
持分法投資損益 他	6.0	11.9	17.9	10.4	8.5	18.9	+4.4	-3.4	+1.0	6.4	13.8	20.2
営業外費用	7.6	6.7	14.3	4.2	7.8	12.0	-3.4	+1.1	-2.3	6.4	6.9	13.3
支払利息	0.5	0.2	0.7	0.5	0.3	0.8	0.0	+0.1	+0.1	0.5	0.3	0.8
固定資産処分損 他	7.1	6.5	13.6	3.7	7.5	11.2	-3.4	+1.0	-2.4	5.9	6.6	12.5
営業外損益	1.9	11.7	13.6	9.4	4.0	13.4	+7.5	-7.7	-0.2	2.8	10.6	13.4
特別利益 (投資有価証券売却益)	10.9	5.0	15.9	28.2	10.0	38.2	+17.3	+5.0	+22.3	10.0	6.0	16.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	27.9	0.0	27.9	+27.9	0.0	+27.9	0.0	0.0	0.0
特別損益	10.9	5.0	15.9	0.3	10.0	10.3	-10.6	+5.0	-5.6	10.0	6.0	16.0

12

それから12ページ、営業外と特別損益でございます。

一番下の特別損益のところをご覧くださいますと、昨年度は有価証券の売却益15.9億円があり、特別損失はございませんでした。

今期につきましては、上期、先ほどのとおり、二つの特損項目をカバーし、ほぼここは影響なしです。下期に10億円の売却益を見込んでおりまして、年間ですと特別損益は10億円ということとなり、昨年から約6億円のマイナスとなります。

2021上実績、2021予想 キャッシュフロー

(億円)

	2020上 実績	2021上 実績	2020年間 実績	2021年間予 (2021/11発表)	2021年間予 (2021/5発表)
営業キャッシュ・フロー	336	338	399	393	407
税金等調整前純利益	193	223	455	498	458
特別損益(－は益)	-11	0	-16	-10	-16
減価償却費(1)	48	47	104	105	111
法人税等の支払	-66	-74	-111	-132	-123
運転資金増減他	172	142	-33	-68	-23
投資キャッシュ・フロー	-25	-61	-128	-138	-181
設備投資	-40	-53	-82	-134	-161
投資有価証券購入・売却	15	34	29	46	19
その他(2)	0	-42	-75	-50	-39
財務キャッシュ・フロー	-328	-316	-256	-265	-274
株主還元(配当)	-70	-83	-136	-264	-257
株主還元(自己株取得)	-70	-70	-100		
借入金増減額	-188	-162	-20	0	-17
その他	0	-1	0	-1	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	-1	3	-1	0
現金及び現金同等物の増減額	-17	-40	18	-11	-48
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	0	0	9	0
現金及び現金同等物の残高	289	284	324	322	276

(1) のれん償却費を含む

(2) 2020年間実績: ダイセン事業買収-54、他-21

2021年間予想: NBR*への長期貸付金-33、他-17

*NBR: Nissan Bharat Rasayan Private Limited (p35参照)

13

13 ページにまいります。13 ページはキャッシュフローです。

2021 年の上期の実績、あるいは 11 月に新たに出しました年間の予想、いずれを見ましても、従来同様、余裕あるキャッシュフローという数字で推移すると見ております。

貸借対照表

	2020/9	2021/3 (A)	2021/9 (B)	増減 (B) - (A)
流動資産	1,321	1,596	1,423	-173
現金預金	289	324	284	-40
売上債権	491	739	558	-181
たな卸資産	492	467	520	+53
その他	49	66	61	-5
固定資産	971	1,059	1,051	-8
有形固定資産	512	518	510	-8
無形固定資産	72	121	121	0
投資有価証券*	339	359	321	-38
その他	48	61	99	+38
資産合計	2,292	2,655	2,474	-181
*投資有価証券内訳				
上場株式 (1)	237	244	204	-40
(単体ベース保有銘柄数)	(35)	(31)	(30)	(-1)
非上場株式	26	27	28	+1
関係会社株式	76	88	89	+1
合計	339	359	321	-38

(億円)

	2020/9	2021/3 (A)	2021/9 (B)	増減 (B) - (A)
負債	412	649	500	-149
買入債務	140	163	160	-3
借入金	58	227	65	-162
その他	214	259	275	+16
純資産	1,880	2,006	1,974	-32
株主資本	1,770	1,869	1,863	-6
其他有価証券 評価差額金	102	114	91	-23
為替換算 調整勘定	-8	1	-2	-3
非支配株主持分	16	17	18	+1
退職給付に係る 調整累計額	0	5	4	-1
負債・純資産 合計	2,292	2,655	2,474	-181
自己資本比率	81.3%	74.9%	79.1%	
D/Eレシオ (2)	-13.1%	-5.2%	-11.7%	
株主資本等増減 -6 = 純利益163 - 配当その他169				
(1) 21/3末 244 + 取得0 - 売却7 - 評価差額33 = 21/9末 204				
(2) D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本				

14

貸借対照表、14 ページをご覧ください。

こちらのほうも従来同様、当社の場合は上期に農薬関係の売上債権の回収がございますので、売上債権がぐっと減るということで、その回収金で返済するというパターンになっております。

したがって2021年の9月は現金預金が284億円ですが、借入金のほうは65億円ということで、圧縮をされております。

資産欄の下のほう、投資有価証券の内訳でございます。上場株式、単体ベースの保有銘柄でいきますと、昨年の9月が35銘柄ですが、この9月は30銘柄ということで、5銘柄減少してございます。

2021予想 セグメント別売上高(1)(2)(3)(4)

(億円)

	2020実績							2021予想 (2021/11発表)							増減			2021予想 (2021/5発表)				
	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q実	2Q実	上実	3Q	4Q	下	計	上実	下	計	1Q	2Q	上	下	計
化学	74	73	147	83	89	172	319	88	83	171	96	97	193	364	+24	+21	+45	84	83	167	179	346
ファイン	27	27	54	28	32	60	114	32	30	62	34	37	71	133	+8	+11	+19	32	31	63	66	129
基礎	47	46	93	55	57	112	205	56	53	109	62	60	122	231	+16	+10	+26	52	52	104	113	217
機能性	171	175	346	192	178	370	716	200	196	396	205	208	413	809	+50	+43	+93	186	186	372	386	758
農業化学	146	111	257	63	318	381	638	134	116	250	112	296	408	658	-7	+27	+20	145	103	248	414	662
医薬	15	15	30	14	23	37	67	11	22	33	19	11	30	63	+3	-7	-4	9	20	29	32	61
創薬	7	8	15	6	8	14	29	6	8	14	6	4	10	24	-1	-4	-5	5	5	10	11	21
FT	8	7	15	8	15	23	38	4	15	19	13	7	20	39	+4	-3	+2	4	15	19	20	39
卸売	182	155	337	178	183	361	698	178	186	364	200	187	387	751	+27	+26	+53	165	170	335	366	701
その他	48	46	94	68	76	144	238	49	55	104	53	78	131	235	+10	-13	-3	49	54	103	131	234
調整額	-143	-123	-266	-161	-158	-319	-585	-195	-205	-400	-218	-207	-425	-825	-134	-106	-240	-238	-251	-489	-548	-1,037
合計	493	452	945	437	709	1,146	2,091	465	453	918	467	670	1,137	2,055	-27	-9	-36	400	365	765	960	1,725

- (1) セグメント間の内部売上高又は振替高を含む
- (2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある
- (3) 2020年度より、ファインオキシコール(FO、化粧品原料)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している
- (4) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(p2参照)

会計方針の変更影響(売上高)

(億円)

	2021予想(2021/11発表)						
	1Q実	2Q実	上実	3Q	4Q	下	計
前年同期比(会計方針変更による売上高減少)	-35	-74	-109	-19	-78	-97	-206
業績予想比(会計方針変更による売上高上ぶれ (代理人取引影響額))	+55	+51	+106	-	-	+135	+241

15

続いて15 ページ、セグメント別の売上の表です。

このページは、下の小さい表のところに会計方針の変更影響というところで、前年同期に対する変更の影響、それから業績予想比。こちら、代理人取引だけをピックアップしておりますが、ここに書いてございます。

2021予想 セグメント別営業利益(1)(2)

(億円)

	2020実績							2021予想 (2021/11発表)							増減			2021予想 (2021/5発表)				
	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q実	2Q実	上実	3Q	4Q	下	計	上実	下	計	1Q	2Q	上	下	計
化学	7	-8	-1	7	9	16	15	13	-1	12	10	7	17	29	+13	+1	+14	13	-3	10	14	24
機能性	53	54	107	63	54	117	224	70	62	132	66	65	131	263	+25	+14	+39	55	61	116	122	238
農業化学	40	38	78	-13	117	104	182	41	29	70	20	92	112	182	-8	+8	0	38	20	58	118	176
医薬	-1	1	0	0	4	4	4	-2	7	5	3	-3	0	5	+5	-4	+1	-3	5	2	1	3
創薬	-2	-1	-4	-4	-2	-6	-9	-3	-2	-4	-3	-5	-8	-12	-1	-2	-3	-4	-3	-7	-8	-15
FT	2	2	4	3	6	9	13	1	8	9	7	3	9	18	+5	0	+5	1	8	9	9	18
卸売	7	5	12	7	6	13	25	7	6	13	6	4	10	23	+1	-3	-2	5	6	11	11	22
その他	0	0	0	4	4	8	8	1	-1	0	1	5	6	6	0	-2	-2	0	0	0	7	7
調整額	-8	-8	-16	-12	-5	-17	-33	-11	-8	-19	-12	-3	-15	-34	-3	+2	-1	-10	-10	-20	-14	-34
合計	98	82	180	56	189	245	425	119	94	213	94	167	261	474	+33	+16	+49	98	79	177	259	436

- (1) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある
(2) 2021実績・予想は会計方針の変更影響を含む(p2参照)

会計方針の変更影響(営業利益)

(億円)

	2021予想(2021/11発表)						
	1Q実	2Q実	上実	3Q	4Q	下	計
前年同期比(フルララネルロイヤリティ収入計上時期変更による増減・ 農薬売上値引コスト増減の合計)	+12	-21	-9	+35	-28	+7	-2

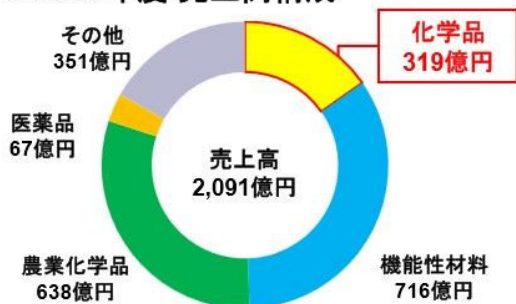
16

16 ページが利益の動きでございまして、同様に会計方針の変更に伴う影響。

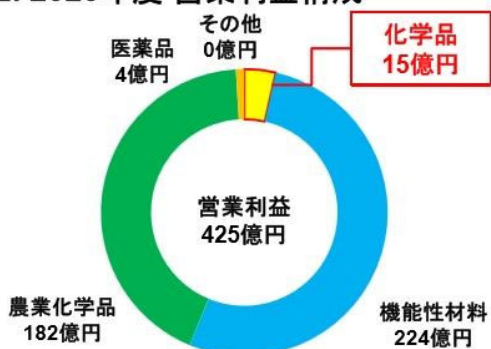
フルララネルのロイヤリティの計上時期、それから農薬の値引きの計上時期の差、これがプロットされております。

化学品セグメント概況- (A) 業績

1. 2020年度 売上高構成



2. 2020年度 営業利益構成



3. 化学品業績推移



17

それでは各セグメントの説明に入ります。17 ページ、化学品セグメントです。

この下の緑の折れ線グラフをご覧ください。今期かなり好調ということで、ご覧のとおり営業利益率は大幅に改善し、8%レベルに来るという予想でございます。

化学品セグメント概況 – (C) メラミン生産停止による化学品事業の構造改革

(2021年8月発表 2021年度第1四半期決算説明資料と同じ)

1. 当社の化学品事業構成 (p18参照)

グループ	主要製品
アンモニア系製品	アンモニア、尿素・アドブルー、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート
硫酸系製品	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他製品	ファインオキシコール等

2. 売上高・営業利益状況

(億円)

	2018-20年度合計 構成	
	売上高	営業利益
アンモニア系製品	674 (66%)	7 (12%)
硫酸系製品	345 (34%)	51 (88%)
その他製品		
化学品セグメント合計	1,019(100%)	58(100%)

→ アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字、メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

3. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難、新規投資による利益拡大も望めない

- ◆世界の生産能力は、需要の2倍 (当社推定)
- ◆国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍 (当社推定)
- ◆価格は、足元回復基調だが、安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

4. 対応策

- (1) 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- (2) 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- (3) メラミン操業員は、富山工場内で配置転換

5. 対応策の業績への影響試算

- (1) メラミン関連諸費用は投資有価証券売却益で対応し影響は軽微
- (2) 2023年度 化学品セグメント概算損益イメージ

(億円)

	2021年度 予想(21/5発表)	2023年度と2021年度予想の差異 メラミン停止影響と対応策効果	2023年度 概算予想
売上高	346	+16	362
営業利益	24	+10	34

6. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン … 2018年度実績の約7%に相当(p47参照)

19

19 ページ、メラミンの生産停止影響。

これにつきましては、1Q でご説明したとおりでございますけども、5 番のところ、業績への影響ということで申し上げますと、今まで申し上げましたとおり、関連諸費用につきましては有価証券の売却益で埋めたということとなりました。

化学品セグメント概況- (D) 主要製品売上高成長率

主要製品		前年同期比 連結売上高成長率(1)								
		2020実績			2021予想 (2021/5 発表)			2021予想 (2021/11 発表)		
		上	下	計	上	下	計	上実績	下	計
テビック	◆(用途) 電材向け(ルガーレジストインキ、LED封止材) 一般向け(粉体塗料硬化剤) ◆世界最大メーカー	-10%	+7%	-1%	+21%	-6%	+6%	+26%	+5%	+14%
環境 化学品	◆(ハイハイ用途) 塩素化イソシアヌル酸を主原料とし、 プール、浄化槽等の殺菌、消毒に使用	-9%	+3%	-4%	+19%	+29%	+24%	+10%	+29%	+19%
ファインケミカル合計 上記2製品の2020年度実績ファインケミカル売上高に占める割合: 74%		+3%	+15%	+9%	+17%	+9%	+13%	+15%	+17%	+16%
メラミン	◆(用途) 接着剤、化粧板	-55%	-33%	-44%	+13%	-2%	+4%	+41%	+34%	+37%
尿素・ アドブルー	◆(用途) 接着剤、 ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水	-5%	+6%	0%	+15%	+3%	+8%	+14%	+8%	+11%
高純度 硫酸	◆(用途) 半導体用洗浄剤 ◆国内最大メーカー	+14%	+10%	+12%	+9%	+4%	+6%	+10%	+3%	+7%
硝酸製品	◆硝酸、亜硝酸・硝酸曹達 (用途) 金属溶解・表面処理、消泡剤等	-2%	+13%	+5%	+16%	0%	+7%	+20%	+2%	+10%
基礎化学品合計 上記4製品の2020年度実績基礎化学品売上高に占める割合: 53%		-20%	-9%	-14%	+12%	+1%	+6%	+17%	+10%	+13%

(1) 2020年度よりファインオキシコール(化粧品原料等)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

20

20 ページ、主要製品の売上高の成長率がございます。

上から3行目の、まずファインケミカルですけれども、右のほう、上期実績でプラス15%ということで、目標の17%を若干下回りますが、年間でいきますとプラスの16%ということで、年初の目標を上回る見込みでございます。

基礎化学品、一番下ですが、17%の増収が実績でして、予想の12%を上回っております。年間でいきますと13%の増収を見込んでおりまして、年初の6%を上回る予想です。

化学品セグメント概況 – (E-1)セグメント収益動向

(億円)

	2020実績(A)							2021予想 (2021/5発表)					2021予想(B) (2021/11発表)						増減 (B)-(A)			
	1Q	2Q	上	3Q	4Q	下	計	1Q	2Q	上	下	計	1Q実	2Q実	上実	3Q	4Q	下	計	上実	下	計
売上高	74	73	147	83	89	172	319	84	83	167	179	346	88	83	171	96	97	193	364	+24	+21	+45
ファイ	27	27	54	28	32	60	114	32	31	63	66	129	32	30	62	34	37	71	133	+8	+11	+19
基礎	47	46	93	55	57	112	205	52	52	104	113	217	56	53	109	62	60	122	231	+16	+10	+26
営業利益	7	-8	-1	7	9	16	15	13	-3	10	14	24	13	-1	12	10	7	17	29	+13	+1	+14

2021 1Q実績

<前年同期比>

- (ファイ) ◆ 増収: テピック一般(輸出回復)・電材(車載向け回復)、環境(シアヌル酸能力増強)
- ◆ 売上高増加、営業利益増加
- (基礎) ◆ 増収: メラミン国内・輸出(需要回復)、硝酸製品(需要回復)、尿素・アドブルー(需要回復)、高純度硫酸(半導体向け好調)
- ◆ 売上高増加、営業利益増加
- (合計) ◆ 売上高+14億円、営業利益+6億円

<2021/5業績予想比>

- (ファイ) ◆ 売上高上ぶれ: テピック一般
- ◆ 売上高下ぶれ: テピック電材、環境
- ◆ 売上高予想通り、営業利益下ぶれ
- (基礎) ◆ 売上高上ぶれ: メラミン輸出、硝酸製品
- 売上高予想通り: 高純度硫酸、尿素・アドブルー
- 売上高下ぶれ: メラミン国内
- ◆ 売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
- (合計) ◆ 売上高+4億円、営業利益予想通り

2021 2Q実績

<前年同期比>

- (ファイ) ◆ 増収: テピック一般(輸出回復)・電材(車載向け回復)
- ◆ 減収: 環境(シアヌル酸増収、プール・スバ向け減収)
- ◆ 原燃料高
- ◆ 売上高増加、営業利益増加
- (基礎) ◆ 増収: 硝酸製品(需要回復)、尿素・アドブルー(需要回復)、メラミン国内・輸出(需要回復)、高純度硫酸(半導体向け好調)
- ◆ 在庫変動影響(プラス要因)、原燃料高
- ◆ 売上高増加、営業利益増加
- (合計) ◆ 売上高+10億円、営業利益+7億円

<2021/5業績予想比>

- (ファイ) ◆ 売上高上ぶれ: テピック一般
- ◆ 売上高予想通り: テピック電材
- ◆ 売上高下ぶれ: 環境
- ◆ 固定費下ぶれ(プラス要因)
- ◆ 売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ
- (基礎) ◆ 売上高上ぶれ: 硝酸製品、高純度硫酸
- ◆ 売上高予想通り: メラミン(国内下ぶれ、輸出上ぶれ)、尿素・アドブルー
- ◆ 在庫変動影響(プラス要因)、原燃料高
- ◆ 売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
- (合計) ◆ 売上高予想通り、営業利益+2億円

21

続きましてセグメントの収益の動向です。21 ページをご覧ください。

各セグメント、1Q、2Q、上期、下期とまとめておりますが、時間もございますので、それぞれ上期と下期のところに絞ってご説明します。

化学品セグメント概況 – (E-2)セグメント収益動向

2021上実績		2021下予想	
<前年同期比>		<前年同期比>	
(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 増収: テピック一般(輸出回復)・電材(車載向け回復)、環境(シアヌル酸能力増強) ◆ 固定費増加、原燃料高 ◆ 売上高増加、営業利益増加 	(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 増収: テピック一般、環境(シアヌル酸能力増強、輸出回復) ◆ 横ばい: テピック電材 ◆ 固定費増加、原燃料高 ◆ 在庫変動影響(プラス要因) ◆ 売上高増加、営業利益増加
(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 増収: メラミン国内・輸出(需要回復)、硝酸製品(需要回復)、尿素・アドブルー、高純度硫酸(半導体向け好調) ◆ 固定費増加、原燃料高 ◆ 在庫変動影響(プラス要因) ◆ 売上高増加、営業利益増加 	(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 増収: メラミン国内・輸出、尿素・アドブルー、高純度硫酸(半導体向け好調)、硝酸製品 ◆ 原燃料高 ◆ 売上高増加、営業利益増加
(合計)	◆ 売上高+24億円、営業利益+13億円	(合計)	◆ 売上高+21億円、営業利益+1億円
< 2021/5業績予想比>		< 2021/5業績予想比>	
(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高上ぶれ: テピック一般(輸出好調) ◆ 売上高下ぶれ: テピック電材、環境 ◆ 固定費下ぶれ(プラス要因)、原燃料高 ◆ 在庫変動影響(マイナス要因) ◆ 売上高下ぶれ、営業利益下ぶれ 	(ファイン)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高上ぶれ: テピック一般(輸出好調) ◆ 売上高予想通り: テピック電材、環境 ◆ 固定費上ぶれ(マイナス要因)、原燃料高 ◆ 在庫変動影響(マイナス要因) ◆ 売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ
(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高上ぶれ: メラミン輸出、硝酸製品 ◆ 売上高予想通り: 高純度硫酸、尿素・アドブルー ◆ 売上高下ぶれ: メラミン国内 ◆ 原燃料高 ◆ 売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ 	(基礎)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高上ぶれ: メラミン国内・輸出、尿素・アドブルー、硝酸製品 ◆ 売上高予想通り: 高純度硫酸 ◆ 原燃料高 ◆ 在庫変動影響(プラス要因) ◆ 売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
(合計)	◆ 売上高+4億円、営業利益+2億円	(合計)	◆ 売上高+14億円、営業利益+3億円

22

まず 22 ページ、化学品の上期の状況です。

ファインケミカルにつきましては増収が多く、売上高が増加、営業利益も増加という結果でした。基礎につきましても、もう全般的に需要の回復が見られまして、固定費の増、原燃料高等ございますけれども、売上、利益ともに増加でございます。

結果として 24 億円の増収、13 億円の増益でございます。この数値はその下、業績予想に対して比べますと、ファインでは、売上、利益ともに若干の下ぶれです。これにつきましてはテピックの電材のところの下ぶれと、それから環境化学品で短期間生産のトラブルがあったということがマイナス要因でございます。

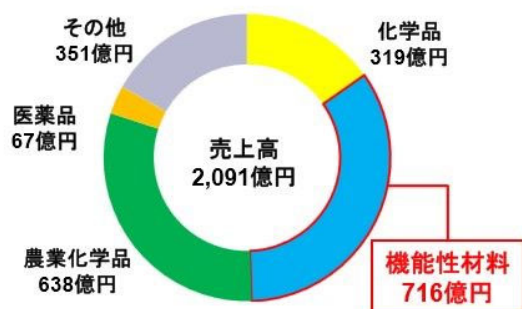
基礎のほうは、原燃料高がございましたが、売上、利益ともに上ぶれております。合計で、売上で 4 億円、利益で 2 億円のの上ぶれです。

続いて右側、下期の状況です。ファインにつきましては引き続き好調ということで、売上も利益も増加です。基礎につきましても、原燃料高はございますが、売上、価格・数量ともに伸びるということで、増収増益を見込んでおります。売上では 21 億円、利益では 1 億円の増加です。

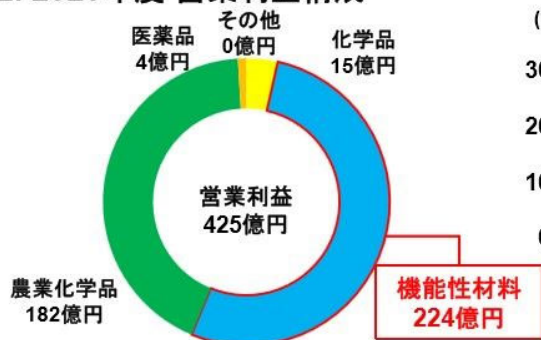
続いて、この予想対比ですが、ファインについて、売上は増えますが固定費の上ぶれ等ございまして、利益は下ぶれです。基礎は、売上も利益をも上ぶれということで、セグメント全体としますと、売上で14億円、営業利益で3億円の増えとなります。

機能性材料セグメント概況 – (A) 業績

1. 2020年度 売上高構成



2. 2020年度 営業利益構成



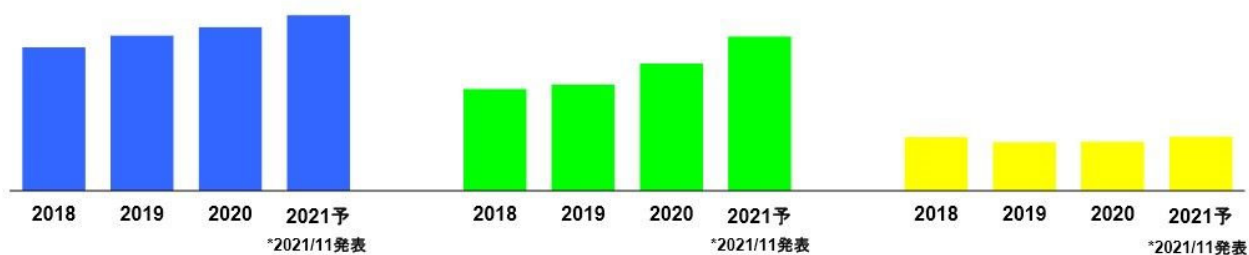
3. 機能性材料業績推移



23

続いて、機能性材料です。まず23ページの緑の折れ線グラフ、利益率ですが、ずっと上がってきておりまして、今期は32.5%に達する見込みです。

機能性材料セグメント概況 – (B) 2018-2021年度 売上高構成推移



< ディスプレイ材料 >

サンエパー：液晶配向材用ポリイミド

< 半導体材料 >

ARC®：半導体用反射防止コーティング材
 多層材料：半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)

その他
 新材料：EUV材料、三次元実装材
 CMOSイメージセンサー材料等

< 無機コロイド >

スノーテックス：研磨材(シリコンウエハー、
 化合物半導体、半導体CMP等)
 特殊鋼板

オルガノゾル・
 モノマーゾル：電子機器用フィルム表面処理、
 樹脂添加剤

オイル&ガス材料：シェールオイル・ガス探掘効率向上材

24 ページは、サブセグメントの売上の構成です。

機能性材料セグメント概況 – (C) 主要製品売上高成長率

主要製品	前年同期比 連結売上高成長率									
	2020実績			2021予想 (2021/5 発表)			2021予想 (2021/11 発表)			
	上	下	計	上	下	計	上実績	下	計	
サンエバー	+7%	+4%	+5%	+5%	0%	+2%	+7%	+6%	+7%	
ディスプレイ材料合計	+7%	+4%	+5%	+5%	+1%	+3%	+7%	+7%	+7%	
ARC® 小計	KrF (ARC®)	+14%	+14%	+14%	+2%	-2%	0%	+22%	+12%	+17%
	ArF (ARC®)	+16%	+15%	+16%	+11%	+11%	+11%	+21%	+22%	+22%
その他半導体材料 計(1)	+51%	+16%	+31%	+7%	+14%	+11%	+17%	+24%	+21%	
半導体材料合計	+25%	+15%	+20%	+9%	+10%	+10%	+20%	+22%	+21%	
スノーテックス	+2%	+9%	+5%	+9%	+5%	+7%	+19%	+6%	+12%	
オルガノソル・モノマーソル	-15%	-1%	-8%	+7%	-2%	+2%	+26%	+2%	+13%	
オイル & ガス材料	-91%	+123%	+18%	+1,483%	-39%	+17%	+1,093%	-41%	+1%	
無機コロイド合計 上記3製品の2020年度連結無機売上高に占める割合: 83%	-8%	+10%	+1%	+13%	-2%	+5%	+23%	-1%	+10%	

(1) 多層材料(OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

*NCK: 連結子会社(韓国)、DP: 半導体材料のR&D・製造・販売

◆ 半導体材料 次世代ロードマップ進行に沿った評価機器、開発設備、生産設備投資

主要投資(承認ベース):

- 14年 評価機器11億円
- 15年 開発設備28億円・評価機器8億円、増強8億円、NCK*7億円、半導体材料研5億円
- 16年 NCK*26億円、評価機器10億円、半導体材料研4億円
- 17年 半導体材料研4億円
- 18年 ARC®増強2億円、製造試験設備2億円
- 19年 半導体材料研1億円、製造試験設備1億円
- 20年 評価機器10億円、ARC®増強2億円、半導体材料研2億円、製造試験設備1億円
- 21年 製造試験設備3億円、ARC®増強1億円、半導体材料研1億円、評価機器1億円

25

続いて 25 ページ、主要製品の売上の状況です。

まずディスプレイですが、サンエバー、上期でプラス 7%ということで予想を上回っております。年間でもプラス 7%の予想で、2%という年初予想を上回っております。半導体材料、合計で上期ではプラスの 20%、下期も好調と見ておりまして、年間ではプラス 21%、予想年初の 10%を大きく上回ります。無機につきましては、上期についてはプラス 23%ということで上回っておりまして、年間でもプラス 10%と見ております。

以上が、全体の売上の伸びの予想です。

機能性材料セグメント概況 – (E-2) セグメント収益動向

半導体その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材合計

2021上実績 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益
光IPS増収(非スマホ好調)、ラビングIPS減収、VA減収、TN増収
固定費増加1億円
- ◆ 半導体増収、増益
ARC®増収、その他増収(多層材料・その他新材料増収)
半導体市場全般好調、固定費増加4億円、在庫変動影響+1億円(プラス要因)
- ◆ 無機増収、増益
スノーテックス増収(一般用途・研磨材増収)
オルガノ・モノマーゾル増収
オイル&ガス材料増収
固定費増加3億円
- ◆ 固定費増加合計8億円
- ◆ 売上高+50億円、営業利益+25億円

< 2021/5業績予想比 >

- ◆ DP売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
光IPS上ぶれ(非スマホ好調)、ラビングIPS上ぶれ(非スマホ上ぶれ)、
VA下ぶれ、TN上ぶれ
- ◆ 半導体売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
ARC®上ぶれ、その他上ぶれ(多層材料・その他新材料上ぶれ)
半導体市場全般好調、固定費下ぶれ2億円(プラス要因)
- ◆ 無機売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ
スノーテックス上ぶれ(一般用途・研磨材上ぶれ)
オルガノ・モノマーゾル上ぶれ
オイル&ガス材料下ぶれ
固定費上ぶれ1億円(マイナス要因)
- ◆ 固定費下ぶれ合計1億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+24億円、営業利益+16億円

2021下予想 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益
光IPS増収(非スマホ好調)、ラビングIPS減収、VA増収、TN減収
固定費増加1億円、在庫変動影響+1億円(プラス要因)
- ◆ 半導体増収、増益
ARC®増収、その他増収(多層材料・その他新材料増収)
半導体市場好調維持、固定費増加6億円
- ◆ 無機減収、減益
スノーテックス増収(一般用途増収・研磨材減収)
オルガノ・モノマーゾル増収
オイル&ガス材料減収
固定費増加4億円
- ◆ 固定費増加合計12億円(共通費用増加1億円含む)
- ◆ 売上高+43億円、営業利益+14億円

< 2021/5業績予想比 >

- ◆ DP売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
光IPS上ぶれ(非スマホ上ぶれ)、ラビングIPS下ぶれ、
VA上ぶれ、TN上ぶれ
固定費上ぶれ4億円(マイナス要因)
- ◆ 半導体売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
ARC®上ぶれ、その他上ぶれ(多層材料・その他新材料上ぶれ)、
半導体市場好調維持、固定費上ぶれ1億円(マイナス要因)
- ◆ 無機売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ
スノーテックス上ぶれ(一般用途上ぶれ・研磨材下ぶれ)
オルガノ・モノマーゾル上ぶれ
オイル&ガス材料下ぶれ
固定費下ぶれ1億円(プラス要因)、在庫変動影響-1億円(マイナス要因)
- ◆ 固定費上ぶれ合計5億円(マイナス要因)(共通費用上ぶれ1億円含む)
- ◆ 売上高+27億円、営業利益+9億円

28

続いて機能性材料の利益の動きです。28 ページが、上期と下期の数字です。

まず上期の前年対比です。ディスプレイ増収増益ということで、光 IPS の増収、特に非スマホ部門での好調がずっと継続をしております。

ラビング IPS については、光へのシフトということでマイナス。VA については、韓国の生産の一部停止、その分中国で挽回しておりますけれども、ここでマイナスとなっております。

半導体については、増収増益、全ての製品について好調が見られます。無機についても増収増益ということで、好調に推移をしております。

全体では、売上で 50 億円、営業利益で 25 億円の増益となりました。

続いて、この予想比ですけれども、ディスプレイ、半導体、いずれも売上、利益が上ぶれということとあります。一方、無機については、コストのアップ等もございまして、売上については上ぶれですが、利益は下ぶれております。

結果として全体では 24 億円の売上の上ぶれ、利益は 16 億円の上ぶれです。

下期の状況です。右側にまいります。

前年同期比でいきますと、ディスプレイ、半導体の増収増益という基調は変わらないと見ております。

一方、無機につきましては若干の減収ということにして、それに費用の増加要因が加わりまして、減益と見ております。

セグメント全体では43億円の増収、利益は14億円の増益です。この数値ですが、5月の予想に対しましては、ディスプレイ、半導体は上ぶれ、無機につきましては営業利益のところでは若干の下ぶれという数字となっております。

全体では27億円の増収、利益で9億円の増益です。

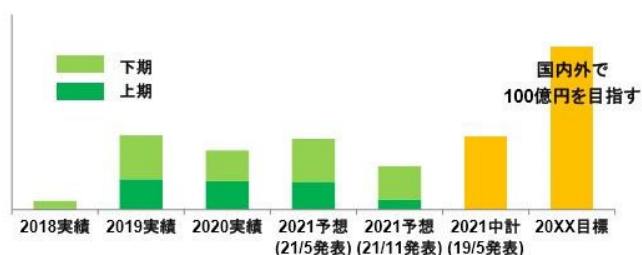
農業化学品セグメント概況- (B) 主要製品売上高成長率(値引前)

◆国内農薬販売額第1位(2018年10月~2019年9月)

主要製品名 (2020年売上高順)	種類	前年同期比 連結売上高成長率							
		2020実績			2021予想 (2021/5発表)	2021予想 (2021/11発表)			
		上	下	計	計	上実績	同左計画比 (2021/5作成、 非開示)	下	計
ラウンドアップ(1)	除草	-1%	+2%	0%	+4%	+4%	下ぶれ	+3%	+3%
フルララネル	動物薬	-20%	+2%	-12%	-11%	-9%	上ぶれ	+5%	-3%
アルテア	除草	+21%	+8%	+11%	0%	-28%	下ぶれ	0%	-7%
タルガ	除草	-11%	+10%	-1%	+1%	+20%	上ぶれ	+8%	+14%
グレースシア	殺虫	-6%	-30%	-20%	+20%	-64%	下ぶれ	+9%	-27%
パーミット	除草	-26%	+18%	+8%	-22%	+31%	予想通り	-18%	-10%
ライメイ	殺菌	+26%	+19%	+20%	+22%	+13%	下ぶれ	+35%	+29%
クインテック	殺菌	-	-28%	-8%	+61%	+115%	予想通り	+16%	+38%
ダイセン	殺菌	-	-	-	+200%以上	-	下ぶれ	+99%	+200%以上
農業化学品 セグメント合計	-	-7%	+5%	0%	+4%	0%	下ぶれ	+5%	+3%

◆グレースシア売上高長期成長予想

(1) ラウンドアップ: 2020年1月22日開催 ラウンドアップの現状説明会資料参照
https://www.nissanchem.co.jp/news_release/news/n2020_01_23.pdf
 マックスロードALは2020年度ラウンドアップ売上高全体の22%を占める



30

続いて農業化学品にまいります。30ページをご覧ください。

主要製品の売上の動きです。かなり上ぶれ、下ぶれが混在している状況です。

まずラウンドアップでありますけれども、上期については4%増ですが、下ぶれです。下期につきましてはプラス3%ですが、年間で3%ということで、5月の計画値を若干下回ります。

一方、フルララネルですが、上期の実績はマイナス 9%でありまして、これは上ぶれております。原薬の出荷はほぼ予想どおりでしたが、ロイヤリティ収入が上ぶれたという結果です。下期も同様にロイヤリティの上ぶれが見込まれておりますので、年間としますとマイナスの 3%、当初の予想がマイナスの 11%ですから、かなりの挽回ということになります。

一方、アルテアにつきましては、前年同期比でもマイナス、予想比でもマイナスです。年間でも同様の状況ということになります。これにつきましては、昨年度の下期はかなり前倒しがあったということと、流通在庫がかなりある。それから外販先、同業の他社への販売が今少し不振であった状況です。

続いて、グレーシア。こちらが大幅な下ぶれということになりました。グレーシアの売上の状況については、このページの左下に棒グラフでお示しをしております。これは年間でも変わらない状況であります。

要因としますと、まず上期につきましては、春先、非常に好天で春キャベツなどの収穫が非常に早まって、防除が省略されたということ、それから上期・下期を通じまして非常に害虫が少ないと見込まれております。加えて、在庫調整。かなり流通在庫があるというところで、それが影響しているという状況でございます。

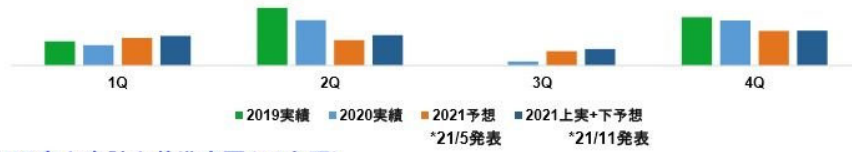
全体で見ますと、一番下、農業化学品セグメントの合計ですが、これ、値引き前の数字になりますが、上期は前年比フラットということで下ぶれですが、この下ぶれの金額自体は 2 億円弱ということで、大きな金額ではございません。年間ではプラスの 3%ということで、4%から少し少ないという数字となります。

農業化学品セグメント概況 – (E-2) フルララネル

◆当社売上高構成

MSD社へのフルララネル販売、MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)収入

◆2019～2021年四半期別売上高推移(ロイヤリティ収入含む)



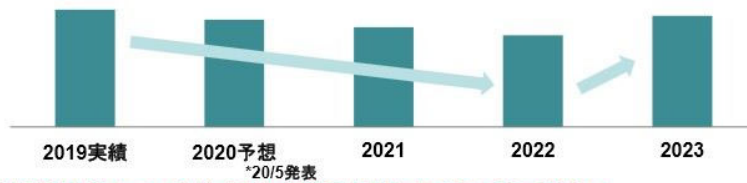
◆2021年度よりRR売上高計上基準変更(p2参照)

(2020年度まで)MSD売上高1-6月分:8月計上、同7-12月分:2月計上

(2021年度より)MSD売上高1-3月分:5月計上、同4-6月分:8月計上、
同7-9月分:11月計上、同10-12月分:2月計上

◆2019～2023年売上高推移イメージ(2020年5月発表 2019年度決算説明資料と同じ)

- ・ブラケット売上高は順調に成長
- ・一方、フルララネルは在庫調整が継続すると見られ、
売上高(ロイヤリティ収入含む)は2022年まで減少、2023年に回復の見込み



◆フルララネルの在庫調整は進んでいるが、現時点では上記シナリオの修正はない

◆ブラケットの開発分野

ペット向けに新たな内外寄生虫薬等、家畜向け経皮投与剤を開発中

34

続いて、飛びまして 34 ページ、フルララネルの状況です。

四つ目のブルーの棒グラフのあるところですが、こちらは 2020 年の 5 月にお示した棒グラフと変えておりませんで、ロイヤリティ収入が増えているということは、末端のブラケットがよく売れているという状況でございます。

在庫調整は進んでいるということでありましてけれども、現時点でこのシナリオ、22 年がボトムであるというシナリオを修正するところまでは判断をいたしておりません。

農業化学品セグメント概況 – (G-2) セグメント収益動向

2021上実績

<前年同期比>

- ◆ 増収: ダイセン(20年4Q販売開始)、タルガ(輸出好調)、クインテック(輸出)、ラウンドアップ(ML: 横ばい、AL: 増収)、パーミット(輸出)、ライメイ(輸出)
- ◆ 減収: グレーシア(害虫発生小)、アルテア(国内)、フルララネル(ロイヤリティ増収、プラベクト在庫調整影響)
- ◆ 棚卸評価損+1億円(プラス要因)
- ◆ 固定費増加6億円
- ◆ 在庫変動影響+6億円(プラス要因)
- ◆ 売上高-7億円、営業利益-8億円
(会計方針の変更による売上高減少-9億円、営業利益減少-9億円)

< 2021/5業績予想比>

- ◆ 売上高上ぶれ: フルララネル(ロイヤリティ収入上ぶれ)、タルガ(輸出好調)
- ◆ 売上高予想通り: クインテック(輸出)、パーミット(輸出)
- ◆ 売上高下ぶれ: グレーシア(害虫発生小)、ラウンドアップ(ML: 下ぶれ、AL: 上ぶれ)、アルテア(国内)、ライメイ(国内・輸出)、ダイセン(輸出)
- ◆ 固定費下ぶれ2億円(プラス要因)
- ◆ 在庫変動影響+4億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+2億円、営業利益+12億円

2021下予想

<前年同期比>

- ◆ 増収: ダイセン(20年4Q販売開始)、ライメイ(輸出)、フルララネル(ロイヤリティ増収)、ラウンドアップ(ML・AL)、タルガ(輸出好調)、グレーシア(国内減収、輸出増収)、クインテック(輸出)
- ◆ 横ばい: アルテア(国内増収、輸出減収)
- ◆ 減収: パーミット(輸出)
- ◆ 棚卸評価損+2億円(プラス要因)
- ◆ 固定費増加8億円
- ◆ 在庫変動影響+2億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+27億円、営業利益+8億円
(会計方針の変更による売上高増加+7億円、営業利益増加+7億円)

< 2021/5業績予想比>

- ◆ 売上高上ぶれ: パーミット(輸出)、フルララネル(原薬・ロイヤリティ収入上ぶれ)、ライメイ(国内・輸出)、ラウンドアップ(ML: 上ぶれ、AL: 下ぶれ)
- ◆ 売上高予想通り: タルガ(輸出好調)
- ◆ 売上高下ぶれ: グレーシア(国内)、アルテア(国内・輸出)、クインテック(輸出)、ダイセン(国内・輸出)
- ◆ 固定費上ぶれ3億円(マイナス要因)
- ◆ 在庫変動影響+5億円(プラス要因)
- ◆ 売上高-6億円、営業利益-6億円

38

続いて 38 ページまで飛びまして、農業化学品の利益の動向であります。

上期、左側であります。増収、減収ということで项目的にはかなり分かれておりますが、全体としますとグレーシアの減収、アルテアの減収、それからフルララネル原薬の減と、この辺りが響きまして、売上ではマイナス 7 億円、営業利益ではマイナスの 8 億円ということとなっております。

ただ、値引きが、会計基準の変更で上期に 9 億円増えておりますので、この会計基準の変更を除きますと、ほぼ昨年並みの実績だったということになります。

この数字の業績予想に対する対比でありますけれども、その下、ご覧のとおり、フルララネルロイヤリティ収入の上ぶれ、タルガの好調等々もございまして、全体としますと売上ではプラスの 2 億円、営業利益ではプラスの 12 億円という大幅な上ぶれとなりました。

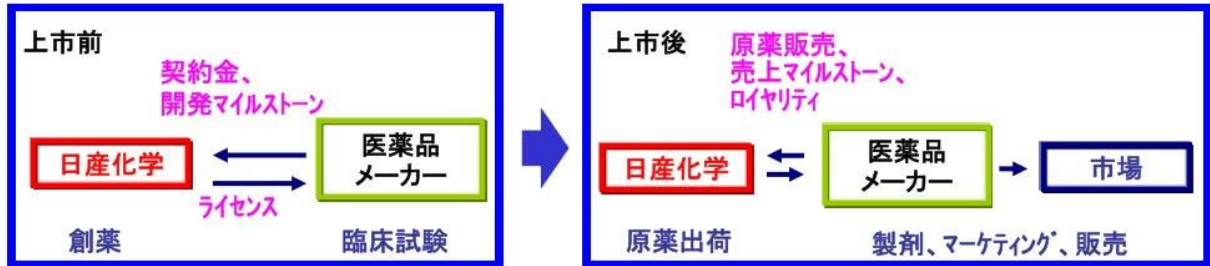
続いて、右側の下期の予想であります。下期につきましては、前年同期比ですと、ダイセンがフルイヤーで効いてきますので、売上高でプラスの 27 億円という数字となります。

営業利益につきましてはプラスの 8 億円ということとなります。この業績予想比、5 月の予想比であります。売上の下ぶれ、グレーシア、アルテア、この辺の下ぶれが効きまして、売上ではマイナスの 6 億円、それから営業利益でマイナスの 6 億円ということとなります。

こういたしますと、ちょうど農薬につきましては2020年と同じ利益ということになります。2020年が182億円で、今年度も182億円という数字となります。

医薬品セグメント概況 – (B) 新薬ビジネスモデルとリバロ

◆ 創薬、開発に特化し、販売部門を有さないユニークな医家向け医薬ビジネスモデル



◆ リバロ原薬(高コレステロール血症治療薬)

売上高	2013 実績	2014 実績
国内末端 (薬価ベース、億円)	526	345
当社原薬 (国内外合計、億円)	102	69
当社原薬 前年同期比成長率	-2%	-32%
(うち国内)	(-2%)	(-46%)
(うち海外)	(-1%)	(+21%)

2018 実績	2019 実績	2020 実績	2021予想 (2021/5発表)	2021予想 (2021/11発表)
167	143	120	-	-
43	40	28	20	23
-11%	-7%	-30%	-27%	-17%
(-53%)	(+105%)	(+6%)	(-13%)	(+47%)
(-6%)	(-14%)	(-35%)	(-30%)	(-32%)

- 2013年8月 国内物質特許満了
- 2020年8月 欧州で市場独占期間満了
- 現在28か国で販売中

40

続いて、医薬品にまいります。40 ページです。40 ページの下の表をご覧ください。

リバロの状況でありますけれども、右肩下がりですと来ているわけですが、ただ今期につきましては、国内でジェネリックメーカーのトラブル等もございまして国内の出荷が増えております。

したがって、当社の原薬の売上は、5月は20億円と見ておりましたが、今の予想は23億円という数字を見込んでおります。

医薬品セグメント概況 – (F-2) セグメント収益動向

2021上実績		2021下予想	
<前年同期比>		<前年同期比>	
(創薬)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リバロ減収(国内増収、輸出減収) ◆ 固定費減少1億円 ◆ 在庫変動影響-1億円(マイナス要因) ◆ 売上高-1.2億円、営業利益-0.8億円 	(創薬)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リバロ減収(国内増収、輸出減収) ◆ 固定費増加1億円 ◆ 在庫変動影響+1億円(プラス要因) ◆ 売上高-3.6億円、営業利益-2.3億円
(FT)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 増収 ◆ 棚卸評価損+1億円(プラス要因) ◆ 在庫変動影響+1億円(プラス要因) ◆ 売上高+4.4億円、営業利益+5.0億円 	(FT)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 減収 ◆ 棚卸評価損+1億円(プラス要因) ◆ 在庫変動影響+2億円(プラス要因) ◆ 売上高-2.9億円、営業利益-0.4億円
(合計)	◆ 売上高+3.2億円、営業利益+4.2億円	(合計)	◆ 売上高-6.5億円、営業利益-2.7億円
<2021/5業績予想比>		<2021/5業績予想比>	
(創薬)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リバロ売上高上ぶれ(国内上ぶれ、輸出上ぶれ) ◆ 固定費下ぶれ1億円(プラス要因) ◆ 在庫変動影響-1億円(マイナス要因) ◆ 売上高+3.8億円、営業利益+2.7億円 	(創薬)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リバロ売上高下ぶれ(国内上ぶれ、輸出下ぶれ) ◆ 売上高-1.2億円、営業利益予想通り
(FT)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高上ぶれ ◆ 売上高+0.2億円、営業利益-0.1億円 	(FT)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高下ぶれ ◆ 在庫変動影響+1億円(プラス要因) ◆ 売上高-0.3億円、営業利益-0.3億円
(合計)	◆ 売上高+4.0億円、営業利益+2.6億円	(合計)	◆ 売上高-1.5億円、営業利益-0.3億円

46

それから飛ばしまして 46 ページ、医薬品の収益動向です。

医薬品の場合は、もう創薬とファインテック、既に開示をしておりますのでご覧のとおりということになりますけれども。

創薬は、国内の増収はありましたが、輸出が減でございますので、売上がマイナス 1.2 億円、営業利益がマイナス 0.8 億円です。ファインテックは好調に増収を続けておりまして、売上でプラス 4.4 億円、利益でプラス 5 億円です。

業績予想比で見ますと、創薬のほうはリバロの売上が上ぶれておりますので、売上はプラス 3.8 億円、利益はプラス 2.7 億円です。ファインテックはほぼ予想どおりの数値です。

続いて、右側の下期の前年同期比でありますけれども、こちらのほうは輸出の減少がリバロに響きまして、売上はマイナス 3.6 億円、利益はマイナスの 2.3 億円です。ファインテック、こちらは、売上は減収と。ほぼ予定どおりの減収でありますけれども、その結果、利益も若干減るといふ数字となっております。

業績予想比、その下ですが、創薬のほうは売上が減収ですが、利益は予想どおり。ファインテックはほぼ予想どおりの仕上がりという状況です。

ESGへの取り組み

◆ ESGインデックス等

- 2017年～ 健康経営優良法人ホワイト500に5年連続認定
 - 2020年6月 S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に2年連続で選定
 - 2020年8月 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明
 - 2020年11月 Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index の構成銘柄に3年連続選定
 - 2020年12月 CDP 水セキュリティにおいて「Aリスト」に2年連続選定
 - 2021年1月 温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定
- 中期経営計画Vista2021(2016-2021年度)目標:
2021年度までに、2011年度比 20%削減 → 2019年度の段階で、2011年度比 27%削減を達成済
- 新長期目標:2030年度までに、2018年度比 30%削減

温室効果ガス(GHG)排出量(CO2換算、千トン)

年度	2011	2018	2019	2020	2021	2030
中期経営計画Vista2021	-	-	-	-	359	-
実績	448	363	327	318	-	-
新長期目標	-	-	-	-	-	254
大手総合化学5社平均	-	-	5,069	-	-	-

- 2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
- 2021年7月 FTSE4Good Index SeriesおよびFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に2年連続選定
- 2021年9月 「統合レポート2021」を発行 (https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/ar/ar2021.pdf)
- 2022年6月(予定) メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)

◆ ガバナンス

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
- 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
- 2021年6月 女性取締役1名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)

◆ 東京証券取引所「企業価値向上表彰」表彰候補50社に選定

- 2020年1月 2019年度「企業価値向上表彰」の表彰候補として、上場企業約3,600社中50社に2年連続選定(2020年度東証は表彰見送り)

47

以上でセグメントを終わりました、47 ページ、ESG のところであります。

この表、温室効果ガスの排出量の実績値、2020年の数字が出まして、31万8,000トンという数字で、2019年よりも減ってきている状況で、2030年には18年対比で30%減を目指したいということです。2022年の6月と書いてございますけれども、メラミン停止で2万6,000トンほどの削減が見込まれております。

中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)(2019年5月発表)– (A)

1. PL(1)

(億円)

	2018	2021	2021	2021
	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/11発表)
売上高	2,049	2,500	2,350	2,055
営業利益	371	400	430	474
経常利益	391	408	440	488
純利益	294	310	330	364
EPS(円/株)	197.67	-	230.00	255.10
配当(円/株)	82	-	-	114
為替レート(円/ドル)	111	115	110	108
ナフサ(円/kl)	49,700	51,100	43,000	-
原油(JCC)(ドル/bbl)	-	-	64	73

コロナ禍にもかかわらず、2021年度は、
中期経営計画における各数値目標を達成見込み

(経営指標)

	2018	2021	2020、2021	2021
	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/11発表)
売上高営業利益率	18.1%	15%以上	18%以上	23.1%
ROE	16.6%	14%以上	16%以上	18.1%
配当性向	41.5%	40%	45%	44.7%

2. セグメント(1)(2)

(億円)

	売上高				営業利益			
	2018	2021	2021	2021	2018	2021	2021	2021
	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/11発表)	実績	旧中計 (2016/5発表)	現中計 (2019/5発表)	予想 (2021/11発表)
化学品	357	405	431	364	30	45	51	29
機能性材料	630	829	751	809	150	184	173	263
農業化学品	627	670	701	658	184	167	211	182
医薬品	70	83	75	63	10	24	7	5
卸売・その他・調整	365	513	392	161	-3	-20	-12	-5
合計	2,049	2,500	2,350	2,055	371	400	430	474

(1) 2021予想:会計方針の変更による売上高減少を含む。セグメントでは「卸売・その他・調整」に反映(p2, 15, 16参照)

(2) 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

50

続いて中計との対比です。50 ページにまいります。

PL の表の一番右側に現在の予想値、その左側に中計の数字がございますけれども、ご覧のとおり、冒頭申し上げましたとおり、全ての利益段階でクリアをする予想であります。経営指標につきましても、売上高営業利益率、ROE、配当性向全てクリアすると見ております。

中期経営計画 Vista2021 Stage II (2019-2021)(2019年5月発表)– (B)

1. キャッシュフロー

(億円)

	2016-2018 合計	2019-2021 合計(概数)	2019-2021 合計
	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計
営業CF	1,021	1,150	1,148
投資CF	-392	-450	-423
財務CF	-620	-750	-773
(うち株主還元)	-556	-700	-725
(うち借入金返済)	-64	-50	-39
	2019/3 実績	2022/3 現中計	2022/3 予想
期末現預金残高	362	300	322
期末有利子負債残高	246	210	227

2. 設備投資、減価償却費、研究開発費、研究開発要員

(億円)

(人数)

	設備投資			減価償却費			研究開発費			研究開発要員	
	2016-2018 合計	2019-2021 合計	2019-2021 合計	2016-2018 合計	2019-2021 合計	2019-2021 合計	2016-2018 合計	2019-2021 合計	2019-2021 合計	2020	2021
	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計	実績	現中計	19実、20実、 21予想 合計	実績	現中計
化学品	66	147	106	52	94	68	16	14	10	5	10
機能性材料	189	178	128	167	170	137	243	267	219	190	210
農業化学品	83	82	157	44	55	76	126	148	133	90	95
医薬品	21	17	17	21	18	16	72	71	71	75	90
卸売・その他・調整	20	23	25	19	31	17	54	80	68	100	75
合計	379	447	433	303	368	314	511	580	501	460	480

51

51 ページ、中計のキャッシュフローと現在のキャッシュフロー。これは3年の合計値であります
が、ご覧のとおり、現中計と現在の2019年、2020年の実績と2021の予想値、ほぼ同じような数
字で仕上がっているというところがお分かりいただけるかと思います。

2021中計と2021予想の差異

(億円)

		2021中計(A)	2021予想(B) (2021/11)	(B) - (A)	
化学品	売上高	431	364	-67	ファイン合計下ぶれ (上ぶれ)テビック一般 (下ぶれ)テビック電材、環境化学品、ファインオキソ(化粧品向け) 基礎合計下ぶれ (上ぶれ)原素・アドブルー (下ぶれ)メラミン国内・輸出
	営業利益	51	29	-22	売上高下ぶれ、固定費下ぶれ ファイン下ぶれ、基礎下ぶれ
機能性材料	売上高	751	809	+58	ディスプレイ合計上ぶれ (上ぶれ)光IPS (下ぶれ)ラビングIPS、VA、TN、その他ディスプレイ材料 半導体合計上ぶれ (上ぶれ)KrF、ArF、多層材料、EUV材料 (下ぶれ)三次元実装材料、CMOSイメージセンサー材料 無機合計下ぶれ (上ぶれ)スノーテックス一般・研磨 (下ぶれ)オルガノゾル・モノマーゾル、オイル&ガス材料
	営業利益	173	263	+90	売上高上ぶれ、固定費(ディスプレイ、半導体、無機)下ぶれ ディスプレイ上ぶれ、半導体上ぶれ、無機下ぶれ
農業化学品	売上高	701	658	-43	(上ぶれ)ダイセン、クインテック、ライメイ (下ぶれ)フルララネル、グレーシア、ラウンドアップ(ML・AL下ぶれ)、タルガ、パーミット
	営業利益	211	182	-29	売上高下ぶれ、固定費上ぶれ
医薬品	売上高	75	63	-12	創薬合計中計通り (上ぶれ)リバロ国内 (下ぶれ)リバロ輸出、一時金 FT合計下ぶれ (下ぶれ)ジェネリック原薬、ペプチド受託生産
	営業利益	7	5	-2	売上高下ぶれ、固定費下ぶれ 創薬上ぶれ、FT下ぶれ
卸売・その他・調整	売上高	392	161	-231	卸売下ぶれ-15、その他国内子会社下ぶれ-13、 調整額計算-203(会計方針の変更による売上高減少を含む(p2、15、16参照))
	営業利益	-12	-5	+7	卸売中計通り、その他国内子会社下ぶれ-2、調整額計算+9
合計	売上高	2,350	2,055	-295	
	営業利益	430	474	+44	

52

52 ページ、中計と 2021 年の予想の差異であります。

利益のところで見させていただきますと、化学品が大幅な下ぶれ、マイナス 22 億円。安い中国品の影響等が当時は予想できなかったというところが大きなところですよ。

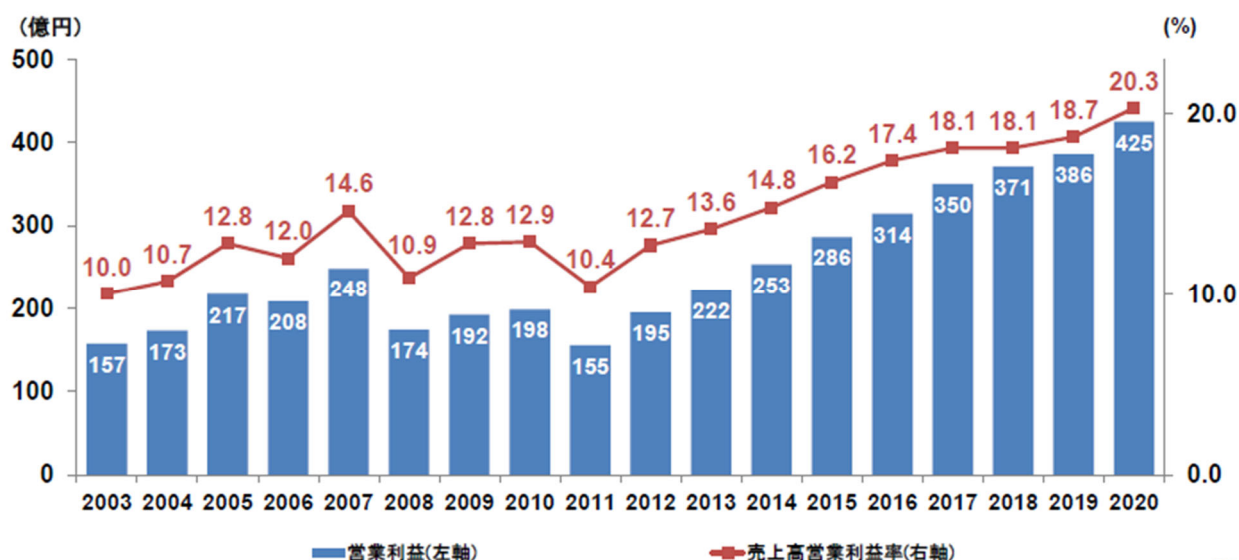
機能性材料は、営業利益はプラスの 90 億円です。ディスプレイの光 IPS、半導体の主要部門での売上の増がございました。無機では、オイル&ガスが大きく不調となりましたけれども、これを大きく上回る利益となり、増益となっています。

農業化学品では、ダイセン、クインテック等の買収がございましたが、フルララネルの在庫調整は当時見込んでおりませんでしたので、これが大きく効いております。

医薬品につきましては、ファインテックのところではペプチドの受託生産が下ぶれということになりましたが、営業利益では約マイナス 2 億円の減。全体で見ますと、プラスの 44 億円の数字となりました。

当社の特徴- (A) 売上高営業利益率

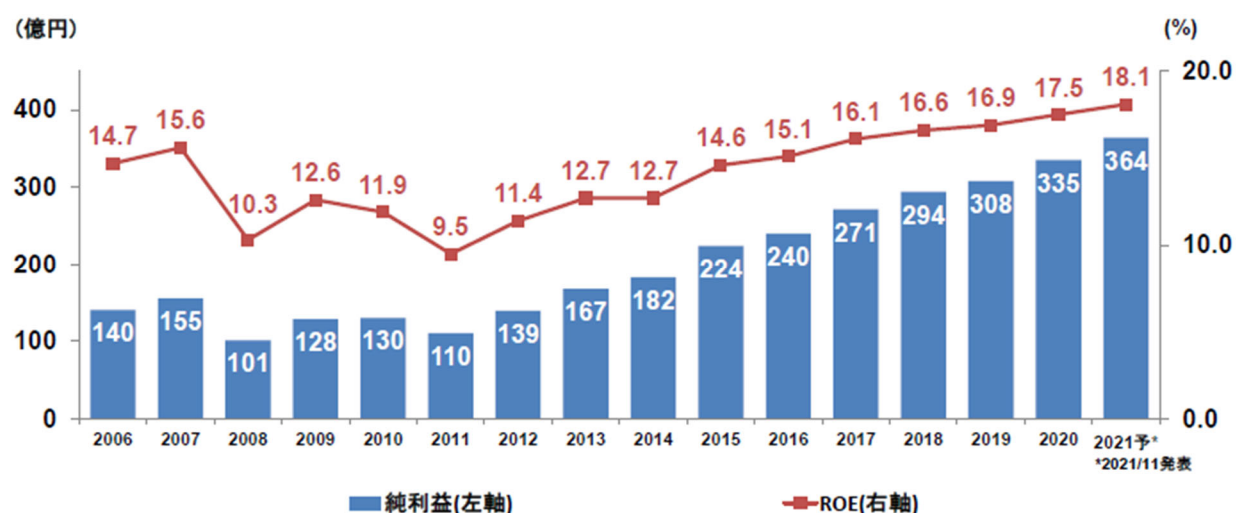
- ◆ 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持
(2003年度以降18年連続10%以上)



53

当社の特徴- (B) ROE

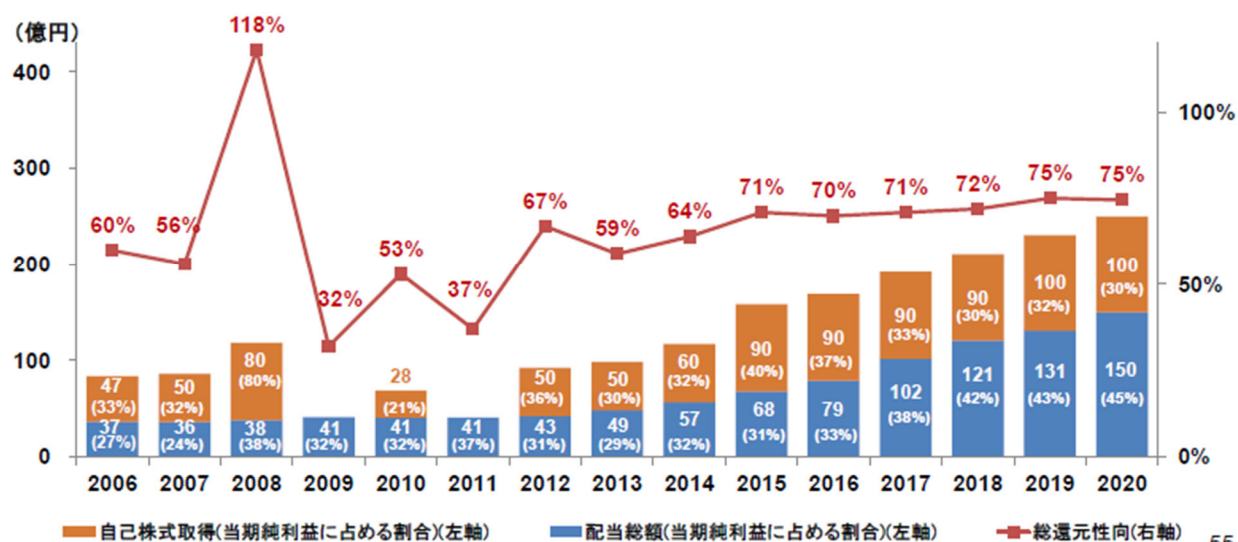
- ◆ ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持が目標
- ◆ 2020年度実績は17.5%



54

当社の特徴- (C)株主還元 (総還元性向)

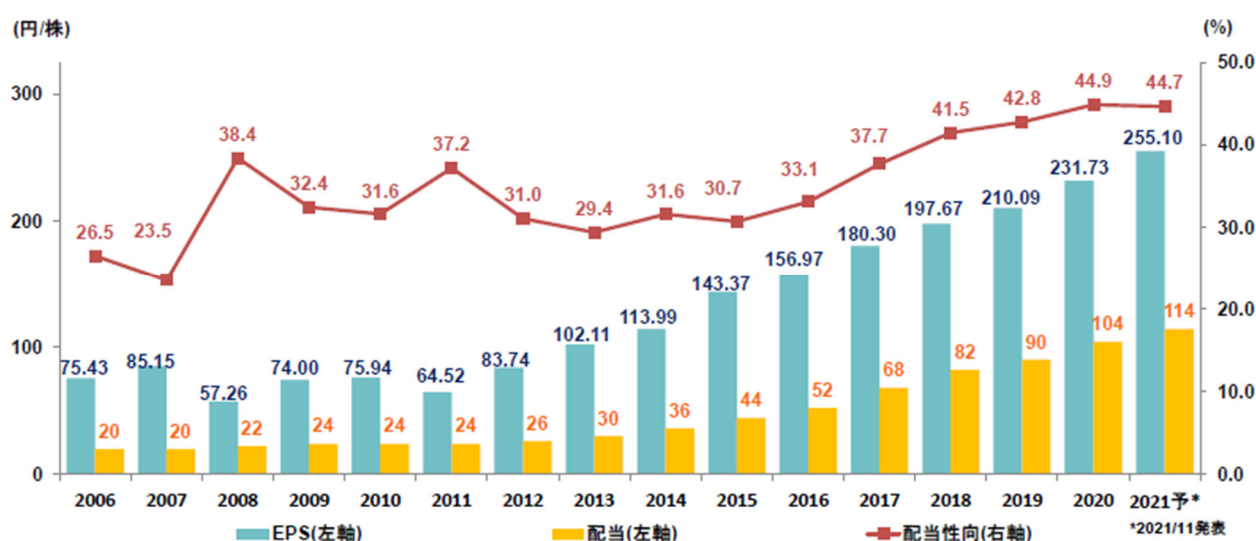
- ◆ 配当と自己株式取得による株主の皆さまへの積極的な利益還元を実施
- ◆ 2016年度以降は、総還元性向70%維持を目標とし、2016-2018年度達成
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標
- ◆ 2020年度実績は74.6%



55

当社の特徴- (D)株主還元 (配当性向)

- ◆ 2015年度30.7%から段階的に引き上げ
- ◆ 中計(2019-2021年度)では2019年度42.5%、2020年度以降45%が目標
- ◆ 2020年度実績は44.9%
- ◆ 2012年度以降2020年度まで9年連続増配



56

当社の特徴－(E)株主還元(自己株式取得)

- ◆ ROE向上を目的に2006年度より開始、2006-20年度取得総額925億円、4,271万株(取得開始前発行済株式の22.8%)
- ◆ 2006-20年度取得株はすべて消却済

年度	2006-2020年度 自己株式取得実績													合計
	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
取得数(千株)(1)	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	42,715
取得価額(億円)(1)	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	925
自己株式消却数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	42,635
発行済株式数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	-
期末自己株式数(千株)(2)	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	-
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	-

*2009年度、2011年度は自己株式取得なし

◆ 取得・消却実績

年度	2018			2019			2020			2021
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	上
自己株式取得総数(千株)(1)	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262
取得価額総額(億円)(1)	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70
自己株式消却総数(千株)	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000

◆ キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準
 = 必要下限額 + 流動性リスク対応[1/3 × (長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)]
 + 偶発リスク対応

57

最後に 57 ページ、株主還元の自己株式の状況です。

57 ページの下の小さいほうの表、取得実績ですが、2021 年はこの上期で 126 万 2 千株の自己株を 70 億円で取得し、200 万株の消却をさせていただきます。決算の説明につきましては、以上でございます。

事業環境に関するコメント（各事業担当者）

<化学品>

上期実績につきましては、2020年度が、コロナで大きな影響を受けて需要が減退していたところからの回復もありまして、前年同期比で見ますと、売上高、営業利益ともに大きく増加しています。基本的にはバランスよく数字が伸びていまして、メラミン、それから硝酸、テピック、シアヌル酸等、伸びている形になっています。

一方、業績予想比で見たときに、ファインケミカルで営業利益が下ぶれしていますが、これは、上期中に製造設備のトラブルがあって品物が出せないような状況があったことと、国内のプールで使う塩素系の殺菌剤が伸び悩みました。当初はコロナから回復してくると見ていたところが、思うようにいかなかった部分が、こういった形で表れております。

2021年度下期について、こちらも、基本的には増収増益になっておりますが、思ったほど営業利益が伸びていないのは、天然ガス、それから船便の都合等が厳しい状態になっていて、この手当てで苦労しているところがこの数字に出ていると思っております。

それから、ファインケミカルで営業利益下ぶれと出ているのは、これは固定費もありますけれども、テピックの一般向けの製品の価格に関して、そろそろ中国での価格が少し下がってくるのではないかという予測が含まれております。あとは、同じく、先ほどハイライト、塩素系の殺菌剤の設備のトラブルの件をお話しましたが、これについては、船便の都合で上期だけに影響が出るのではなくて、下期にも少しその影響が出ている形になっております。

<機能性材料 ディスプレイ材料>

まず上期でございますが、ディスプレイ市況につきましては、コロナ禍の中で引き続きテレビ、ITとも好調でございました。特にIT向けにつきましては、光IPSへの技術転換が進行しております。

ITの中でも、タブレット、ノートPC、モニター、さらには車載向けにつきましても技術転換が進行するという状況でございました。そういった中で当社の販売実績はシェアを維持する中で、増収増益を達成しております。

また、下期でございますが、引き続き IT 向けについては好調を維持すると見ております。その中でも、各地域の主要顧客では、光 IPS の増強ラインの稼働を計画しておりまして、その増産による、さらなる光 IPS の転換が進行すると見ております。特に、ノート PC、車載向けの転換が進む中で、さらに増収増益を見込んでおります。

<機能性材料 半導体材料>

上期実績は、業績予想比で、半導体市場全体の好調からプラスとなりました。プラスの要因を大きい順で申し上げますと、韓国の先端ロジック・メモリ向けで需要増、中国の旧世代ロジック・メモリ向けで需要増、台湾のロジック全体向けで需要増となります。

下期の予想ですけれども、好調維持。さらにデバイスメーカーでの生産能力増強がありまして、上期実績に対してプラスを見込んでおります。こちらもプラスの要因を大きい順で申し上げますと、中国の生産能力の増強、韓国の生産能力の増強、台湾の好調維持、先端ロジックの立ち上がり、となります。

<機能性材料 無機コロイド>

まず、上期実績は前年同期比で増収増益となりました。基幹製品でありますスノーテックスは増収となりました。昨年度はコロナ禍の影響を大きく受けましたが、今年度は自動車、半導体関連が堅調に推移しておりまして、需要が強い状況でございます。また、国内の同業他社が今年 3 月に生産を停止した影響も出始めております。オルガノ・モノマーゾル、オイル&ガス材料についても、前年同期比で増収となりました。こちらも前年はコロナ禍の影響が大きかったことが起因しております。

下期の予想ですが、スノーテックスに関しましては、引き続き需要が堅調に推移すると予想しております。一方、原料等の高騰もありまして、収益性の低下が懸念材料としてあります。こちらにつきましては、価格改定に取り組んでいく予定でございます。オルガノ・モノマーゾルは、引き続き前年同期比増収で仕上がる見込みとなっております。オイル&ガス材料につきましては、前年は大型案件が実需化したということもあり、前年同期比では減収になる見込みでございます。ご存じのとおり油価は高騰しておりまして、市場環境は良いのですけれども、アメリカではバイデン政権、こちらがネガティブな方針でありまして、この点は懸念材料になります。

<農業化学品>

まず、上期につきましては、全体を通して値引き前売上ベースで、前年同期比でわずかに減収となりました。要因といたしましては、動物薬の原薬販売における顧客在庫の影響と、国内のグレースシアです。グレースシアは、天候不順等によって、流通在庫があまりはけない。それで、当社の出荷が伸びなかったという状況です。また、アルテアも同じく、流通在庫による出荷減少がございました。しかしながら、新規買収剤のダイセン、あるいはタルガの輸出好調等でカバーをしたということでございます。

グレースシアに関しましては、当初春先で流通在庫の整理がなかなか進まず危惧をしていましたが、9月末現在では比較的順調に在庫の消化が進んできているという認識です。一方、タルガに関しましては、特にインドにおきまして、混合剤上市が行われて順調に伸びているということと、もう一つの需要地であるブラジルで、これは穀物価格の高騰と輸出が好調ということで、大豆の作付面積が大幅に増えたと。タルガもそれに比例して販売が伸びたという状況でございます。

下期の見通しにつきましては、これも同じく値引き前売上ベース前年同期比で、こちらは増収を見込んでおります。その主な要因といたしましては、動物薬のロイヤリティの増収。先ほど申しましたタルガの輸出好調が継続している、ということでございます。一方、グレースシアに関しましては、国内は引き続き減収傾向ではございますが、海外向けは拡大しておりますので、増収を想定しているということでございます。

<医薬品>

上期実績は、業績予想比で、リバロは上ぶれということで、売上、利益ともプラス。ブランド品に少し要求が高まりまして、プラスになったと見ております。ファインテックにつきましても売上プラスとなっています。

下期は、期初予想対比で、リバロ、ファインテックとも上期に出荷が寄った影響もあり、全体的に若干マイナスで進む計画になっております。

通期予想については、期初予想対比では若干プラスを見込んでおります。エルデカルシトールはジェネリックの出荷調整等の報道がございましたけれども、原薬出荷の方は問題なく進んでいるということをつけ加えさせていただきます。

質疑応答

<質問者 1>

Q: 今年度が最終年度の中期経営計画は大幅上ぶれで終了の見込みですが、特に光 IPS や半導体材料が好調で機能性材料が目立っています。来年度から始まる新中期経営計画での3カ年では、どういったポートフォリオで成長して行こうとされているのでしょうか。特に、ディスプレイ材料に関しては、光 IPS への技術転換がまだ続くとは思いますが、これまでの3年間に比べるとスローになる可能性もあります。そういった中でどうやって利益を伸ばしていくのか、その点についてご説明を頂けませんか。

A: 社長の八木でございます。向こう3カ年、さらにプラス3カ年の6カ年の中期経営計画が来年度から始まります。次期中期経営計画では、ディスプレイ材料だけでなく、半導体材料の増益計画もあります。農業化学品においても、新しい原体がラインナップとして上がってきています。その他に、すぐに利益に貢献できないかもしれませんが、新しい分野についても現在検討を進めており、更なる拡大に向けて取り組む所存です。

Q: ディ스플레이材料については、技術転換の余地がまだあるという理解で良いでしょうか。

A: はい。

<質問者 2>

Q: まず、農業化学品の在庫調整関連に関して、先ほどグレースシアについては、9月末現在で比較的順調に消化が進んでいるというお話がありましたが、来年度までは引っ張らなさそうな問題となってきたのかという点。また、アルテアの流通在庫の問題に関しましても、下期こういったご感触をお持ちなのか。フルララネルに関しましては、下期に原薬も上ぶれる見込みという記述が資料の38ページにもありますので、少しメルクからの引き合いが強くなっているのか。それとも、単にタイミングの問題なのか。この在庫調整の問題を抱えている3製品に関して、追加的なコメントをいただけますでしょうか。

A: まず農薬2品目、グレースシアとアルテアの在庫調整の進捗について、ご説明させていただきます。グレースシアに関しましては、春先、好天続きという極めて稀なケースで、1回防虫がスキップされてしまったということもありまして。当初は、流通在庫の消化が非常に悪かった状況で、非常

に危惧をしておりました。その後、秋も大雨があったのですが、最終的に9月末の、当社アカウントの在庫調査を行いまして、当初危惧していたよりは在庫の消化は順調に進んでいるということでした。しかし、まだ完全な適正在庫状況には至っておりませんので、2022年度、早い時期、1Q、2Q 辺りまでは影響が少し出るのかなという状況です。

アルテアに関しましては、4月以降、使用時期が終わっているような状況でして、現在流通における在庫はほとんど変わらないという状況です。ただ、それほど大量ではない在庫ですので、来年度に関する影響は軽微であると考えております。

フルラネルについては、下期の原薬の上ぶれは確かにあるのですが、非常に小さい金額ですので、若干の違いという程度でご認識いただければと思います。

Q: 分かりました。ロイヤリティも上ぶれているので、来期以降期待をしております。2問目が固定費に関してですが、機能性材料と農業化学品、いずれも下期の固定費を期初計画よりも積み増されています。農業化学品で下期の期初計画よりも3億円、機能性材料でディスプレイを中心に5億円積み増されているかと思えます。この背景について追加的なコメントをいただけますか。

A: 農業化学品は、DXの取り組みを会社の中でも先行して進めていまして、その費用が大きくなるところと、それから旅費交通費も元に戻るという前提で考えています。機能性材料も、やはり全体で旅費交通費の元に戻ってくるという前提と、それからR&D費用が上期に出なかった分が下期に出てくるというものもあるので、それが増えるという前提です。

Q: 元に戻るとするのは、コロナ前のようなイメージを持たれているということですか。

A: そうですね。徐々に戻ってくると見えています。

Q: 現実的に出張などがそこまで増えなければ、上ぶれ余地があるイメージでよろしいですね。

A: そうです。

<質問者 3>

Q: 八木社長にお伺いしたいのですが、次期中期経営計画について、前回5月の決算説明会では新たな成長エンジンの創出というお話があったと思います。はっきりしたことはコメントできないかと思いますが、こういった分野を狙っているというお考えがありましたら教えてください。また、ROEはすでに18%まで上がってきていますが、次期中期経営計画では、ROE 20%以上を視野に入れているのか、その点を確認させてください。

A：八木です。中期経営計画と長期経営計画の検討を現在進めておりますが、具体的にはまだ申し上げることはできません。ただ、例えばライフサイエンス材料が既存のものだけで良いのか、あるいはライフサイエンスと紐づけ、飛び地でない領域で我々の技術が活かさないのか、というような点を探っている最中です。来年の発表まで楽しみにお待ちしております。ROEについては、次期中期経営計画では現状維持付近だと捉えて頂ければ良いと思います。

Q：分かりました。次期中期経営計画は、M&A をある程度考慮に入れたものになりますか、それとも、オーガニックグロースが中心ですか。

A：M&A について具体的な話は出ておりませんが、もちろん視野に入れて検討を進めています。

Q：分かりました。ありがとうございます。二つ目ですけれども、半導体材料のところでお伺いしたいのですが、今回、上期と下期で両方とも上方修正という形で、かなり上ぶれています。それぞれ ARC の KrF と ArF、その他半導体材料で、想定よりもかなり上ぶれている背景を教えてくださいませんか。

A：主な背景としましては、当社の想定よりもお客様の生産能力増強がすべて前倒しになったという一言に尽きてしまいます。プラスして、先端のロジックなどですと、元々先端に向かっていくにしたがって、EUV の使用率が高くなっていったり、リソグラフィの回数が増えたりすることで、全体の材料を使っただけのといったところと、シェアが拡大方向にあるといったことがプラス要因になります。

Q：分かりました。ちなみにその他の半導体材料のところだと、CMOS イメージセンサーとか EUV 材料とか、多層材料があると思うのですが、簡単にコメントいただけますか。

A：その他の半導体材料ですと、多層材料が半導体先端のリソグラフィに関係していますので一番伸びております。CMOS イメージセンサーは若干上ぶれ。EUV 材料は大きく伸びております。

<質問者 4>

Q：ディスプレイ材料サンエバーについて教えてください。パソコン関連は、上期にかなり売れた反動で、下期は需要が落ちるのではないかと懸念が一部あるかと思っておりますけれど、下期以降のこのセットの需要については、どのような想定をされていますでしょうか。

A：ノート部品につきましては、下期も引き続き堅調に持続するという見方をしています。その中でも、さらに光 IPS への転換が進む中での好調持続という捉え方をしております。

Q：光 IPS 化が進むことによる増加というのは分かるのですが、セットの需要そのものの台数ベースでも堅調が続くと想定されているのでしょうか。

A：はい、そうです。それに向けて、各主要顧客では増産体制の準備が整っている状況です。

<質問者 5>

Q：農業化学品について、今回から会計方針の変更があり、実態のトレンドとして上向いているのか下向いているのかが見極めにくいように思います。今後の 3Q と 4Q の見方について、少し補足いただけますでしょうか。

A：農薬の場合、季節性がかなりございますので、3Q、4Q それぞれの収益性に関してはお答えが難しく、トータルで見ていただくしかないと考えています。

Q：わかりました。農業化学品は、従来の予想に比べると下ぶれるという判断かと思うのですが、これが来年度以降どのぐらいの時期だと回復が見通せるのか。先ほどグレーシアの在庫がある程度調整が終わった、という話もあったと思うのですが、先行きについて、どの時期だと明るく見られるのかというところの補足をお願いします。

A：来年度のタームでいきますと、2Q の時期ぐらいで動向が見えてくると思います。

<質問者 6>

Q：農業化学品について、ここ最近、アメリカの会社からいくつか剤の導入をされていて、ここから先も、マルチナショナルカンパニーの事業ポートフォリオの見直しはあると思うのですが、御社にとって都合のいいようなディールがまだありそうなのか、感触だけ教えてください。

A：クインタック、ダイセンに続く剤の買収についてですが、現在、具体的なものは無いというのが実情です。ただ、われわれも、彼らのポートフォリオステージの中で、もし当社に適合するような剤がありましたら、それは注視していくという状況です。

以上